

学問分野別
P9

分野別

総合教育科目
P51

総合

文学部
P89

文

経済学部
P165

経

法学部
P201

法

教職
P263

教職

科目別履修要領

〔文学部専門教育科目〕

- ・履修要領には、絶版となった参考書も記載してあります。これは、「その参考書が学習上有益である。」と担当者が判断したものです。可能な範囲で図書館などで捜して学習することをお勧めします。
- ・この科目別履修要領の講義要綱には、科目名の「新」・「改訂」が省略されている箇所があります。

【講義要綱】

西洋哲学の源泉となった著作を自ら精読することにより、哲学の問題と方法に触れることを目的とする。

【参考文献】

内山勝利・中川純男編著『西洋哲学史〔古代・中世編〕—フィロソフィアの源流と伝統』ミネルヴァ書房、1996年

内山勝利・中川純男ほか編『哲学の歴史』第1巻（古代Ⅰ）、第2巻（古代Ⅱ）、第3巻（中世）、中央公論新社、2007-2008年

【レポート作成上の注意点】

- ・レポートの書き方については、河野哲也『レポート・論文の書き方入門』第3版、慶應義塾大学出版会、2002年を参考にすること。
- ・自分の選んだテーマを最初に明示すること。
- ・教科書や参考文献をそのまま引用するのではなく、課題図書に基づいて自分のことばで考えること。
- ・概説的知識、時代背景などには言及しないこと。
- ・課題図書の書物の内容に言及するときは、a) の場合は、欄外にある21a、481B等の記号、b) の場合は、巻・章（できれば、欄外にある1097b20等の記号を合わせて）、c) の場合は、論文名、d) の場合は巻、章、節を明示すること。
- ・課題図書、教科書、参考書以外にレポート作成の参考にした書物があるときは、レポートの末尾に明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

『西洋哲学史Ⅱ』では、西洋近代の主立った哲学者の思想を時代順に紹介していきます。哲学では自分で問題を立てて考えていくことが重要ですが、自分勝手な思考に陥らないために、過去の哲学者の思想に習熟することは重要な訓練になります。この科目ではそういった基礎的な哲学的な知見の獲得を目指します。

【テキストの読み方】

難解な概念に出会ったら、哲学辞典など紐解き、基礎的知識を得た上で、反復して内容を

考えてみるのが大切です。

【履修上の注意】

概念の内容を身近な事例に引き寄せて考えてください。

【参考文献】

内山勝利・中川純男ほか編『哲学の歴史』第4巻（ルネサンス）、第5巻（17世紀）、第6巻（18世紀）、第7巻（18-19世紀）、中央公論新社、2007～2008年

【レポート作成上の注意点】

テキストや参考文献のことはよく理解できていないのに、そのまま写すような仕方での利用は避けてください。また引用する場合は、それが引用であることを明示し、またその出典を明示することがルールです。無断引用はカンニングに等しい行為です。

【成績評価方法】

科目試験による。

論理学 (L)

(L 037-7703、L 7742) [2単位]

文

【講義要綱】

論理学の研究はアリストテレス以来長い歴史をもっています。私たちが何かを推理するときに不可欠の規則が論理規則と呼ばれ、それがないと考えることさえ覚束ない基本的な規則と考えられています。それを研究するのが論理学で、19世紀末のフレーゲの研究によって論理学はそれまでにない新たな発展をすることになります。数学的な思考と記号の使い方が論理学に取り入れられ、数学やコンピュータ科学と結びつきながら、様々な分野で応用され、基礎研究には欠かせない役割を演じています。

この講義では論理的な推論や真偽概念について基本的な事柄を学んだ人を対象に、それらを実際に使うことができるようにすることを目的にしています。それによって自分が論理的に考えることができるようになるだけでなく、他人の考えが正しいかどうかもしっかり判定できるようになれることを目指しています。

【テキストの読み方】

文学部の他のテキストと違って記号や数式、論理式がたくさん登場します。自然な言語ではなく、記号言語を使って文や命題を論理式に書き直し、推論が正しいかどうか調べるのが主要な内容ですから、それをしっかり肝に命じて読み進めてください。実際に問題を解く解き方が丁寧に説明されていますから、普通に読み進めれば、テキスト以外の参考文献を参照しなくても完全に理解できます。根気強く読めば、このテキスト一冊だけで論理的な推論の構成や吟味が自分で理解できるようになります。その意味で、このテキストは論理的な推

論についてのマニュアルだと考えてください。

【関連科目】

論理学が生まれた経緯や歴史から哲学が強い関連をもった科目です。推論することが主要な研究方法である哲学では論理的な推論が大切な道具になっていますから、論理学の知識は哲学の問題を扱う上で役立つはずですが、また、数学的な形式をもった内容ですから、数学基礎論、計算理論、コンピュータ言語等は論理学と密接に結びついています。さらに、言語学との関連も20世紀後半には強くなり、統語論、意味論等で重要な役割を果たしています。

【参考文献】

論理学のテキストはたくさんありますが、テキストの読み方で書いたように、このテキストはマニュアルですから、複数のマニュアルは必要ありません。他の論理学のテキストをまずは忘れてこのテキストだけに集中してみてください。どれも似た内容なら一冊だけ暗記するほどに読むのが一番です。

【レポート作成上の注意】

他の文献を参照する必要はありませんから、テキストの内容だけを十分に使ってレポートを作成してください。文献を検索し、巧みにそれを使うのではなく、テキストの内容を正しく理解し、それだけを使って問題を解くことに専念してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

科学哲学

(L 089-0401) [4単位]

【講義要綱】

科学哲学は科学についての哲学で、それを概説したのがこのテキストです。テキストは第一部の総論、第二部の各論からなっており、第一部はテキストの順序通りに読んでください。第二部は順序通りでなくても構いません。

テキストでは科学的な知識がどのような特徴をもっているかが中心課題の一つになっており、それを「自然の変化」をめぐる考察する仕方でも議論が進んでいきます。実際には各論から話を始める方が具体的なのですが、まず全体像を把握してもらうために科学史、思想史から始まっています。

科学を知った上で科学哲学を研究するのが普通ですが、テキストには科学的な事柄も必要なものは入っています。ですから、科学に関心さえあれば、テキストを読み進めていけるはずです。

【テキストの読み方】

テキストをどのように読み進めるかはきわめて重要です。そこでこのテキストの読み方について説明します。このテキストは論証の部分と、歴史的経緯や状況の説明の部分とからなっています。事件や事実を叙述する場合と、その背後のからくりや原因と結果の関係を推理する場合は大きく違っています。叙述の代表は小説や報道記事です。何が何時どのようなようになったかという報告は、素直に読むだけで事の経緯がわかりますから、考えながら読む必要はありません。映画やテレビドラマが面白いのは筋の展開や心理描写にあり、それらは考えなくてもわかります。一方、論証の代表例は数学の定理の証明です。シャーロック・ホームズの推理も論証の一つです。数学の定理や名探偵の推理はしっかり考えないとわかりません。このテキストはこれら二つの異なる部分、つまり論証部分と叙述部分からなっていることに注意してください。

読んでいる部分が論証なのか、叙述なのかをまず確認してください。いずれの部分かによって読み方が違ってきます。論証部分がかつて数学のテキストを読んだときのことを思い出しながら、その時と同じように読んでみてください。時間をかけてゆっくり読まなければなりません。途中でわからなくなったら先に進むのではなく、前に戻らなければなりません。何度も前のページを見返すことが必要になります。一人で読む場合、このような読み方は一方的に辛抱強さを要求しますから、ついいい加減になったり、読み飛ばしたりしてしまいます。辛抱強く、何度も読み返す、わかるまで頑張る、といった根気が求められます。これに対して、叙述の部分は日本語さえわかれば大抵苦労なしに理解できます。正確に理解することを心掛ければまず心配は要りません。用語や人名が不明ならそれを調べる程度で済みます。でも、自分が正しく内容を理解したかどうかの確認は叙述の部分の方が厄介で、誤解しないよういつも注意しなければなりません。論証部分はわからない場合にはわからないという自覚が必ずあり、わからないことがはっきりわかります。

さらに、このテキストのもつ特徴は（問）があちこちにあることです。問は必ず解答してください。テキストの内容が理解できたかどうかの目安になります。テキストが二つの異なる部分をもつことを念頭に置きながら丁寧に読み進め、必ず「わかった」、「理解した」という確信がもてるまで頑張ってください。

また、テキストはページ数が多くて最初から読みたくないという気持ちになりそうですが、第二部の各章は半ば独立していますので、好きな章から読み始めて構いません。

【履修上の注意】

科学的な知識を多くもっている必要はありませんが、科学に関心・興味をもっていることが必要です。

【関連科目】

科学の哲学ですから、科学のどの科目も関連科目ということになります。しかし、伝統的に科学哲学は自然科学の哲学として研究されてきました。ですから、まずは自然科学が関連

する科目であると考えてください。それらの多くは総合教育科目のほうです。社会科学や歴史の科目であっても、研究の方法や対象に関する哲学的な考察が含まれていれば、十分に関連科目と言えます。

科学に関するニュース、記事等は実に多いですから、それらに関心を寄せ、気にするようになしてください。

【参考文献】

科学に関する啓蒙書、科学雑誌、科学的なエッセイ、伝記等、科学に関するあらゆる本が参考文献になります。科学についての知見を広めるためにいろんな文献を貪欲に読んでください。

西脇与作編『入門科学哲学』慶應義塾大学出版会、2013年

【レポート作成上の注意点】

テキストや参考文献を写すのではなく、自分で推論した内容を書いてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

倫理学

(L 065-8902、L 8958)〔2単位〕

【講義要綱】

本書では、普遍的な倫理追究の型として、次の6つを取り上げて説明します。

- 1) ユダヤ・キリスト教
- 2) アリストテレスの目的論
- 3) カントの義務論
- 4) ムーアのメタ倫理学
- 5) シェーラーの価値倫理学
- 6) 生命倫理

【テキストの読み方】

『塾生ガイド』の「テキストの学習」（第4章「学習過程」、『教職課程履修案内』では第12章「学習過程」）に従ってください。

【参考文献】

小松光彦・樽井正義・谷寿美編『倫理学案内—理論と課題』慶應義塾大学出版会、2006年
柘植尚則『プレップ倫理学』弘文堂、2010年

【レポート作成上の注意点】

『塾生ガイド』の「レポート作成上の注意」（第4章「学習過程」、『教職課程履修案内』で

は第12章「学習過程」)に従ってください。

【成績評価方法】

科目試験による。

現代倫理学の諸問題

(L 045-7802、L 7844)〔4単位〕

【講義要綱】

20世紀の倫理学をとりまく学問的状況、研究対象としている問題（実存、他者、世界、言語、宇宙における人間の位置、価値）を概観することを通して、倫理学という学問についてより深い理解を得ることを目的とします。

【テキストの読み方】

『塾生ガイド』の4章（『教職課程履修案内』では第12章）学習過程の「テキストの学習」に従ってください。

【参考文献】

小松光彦・樽井正義・谷寿美編『倫理学案内—理論と課題』慶應義塾大学出版会、2006年

【レポート作成上の注意点】

『塾生ガイド』の4章（『教職課程履修案内』では第12章）学習過程の「レポート作成上の注意」、『レポート課題集』の「レポート課題」の注意1～3をよく読んでください。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・日本美術史 I

(L 116-1401)〔2単位〕

【講義要綱】

日本美術史のうち、江戸時代までを扱います。日本は中国および韓国から多大な影響を受けて自国の文化を形成しました。美術についても同様であり、これら大陸の美術状況を見無視してはこの時代の日本美術を語ることはできません。したがって、第一に中国や韓国のどのような影響を受けているのか、第二にそのような受容において日本独自のものがあるのか、あるとすればどのようなものか、という2つの視点が必要です。これを、観念的ではなく、自身の目で観察し、作品の特質とそのような作品が産み出された背景について、具体的な証拠を挙げて論証することが、美術史学です。したがって、テキストや文献を読むのと同時に、自身で作品と出会い、作品を「読む」こと、つまり観ることが重要です。

【テキストの読み方】

作品を味わうことがなければ「日本美」は理解できません。テキスト（『新・日本美術史Ⅰ』）は縄文時代以降の日本美術を通史的に扱っていますが、どのように作品を味わうかという点に重点を置いているため、取り上げている作品に限りがあり、重要作品全てを網羅するものではありません。したがって、参考文献に挙げた図書等を利用し、できるだけ多くの作品を多角的に見る訓練を積んで下さい。

【履修上の注意】

美術史学は読んで理解するだけではなく、自身の目で見て会得するものです。あるいは、自身で観察した上でなければ、どのような解説書を読んでも理解できないというべきでしょうか。したがって、履修者はできれば実作品を見学するか、少なくとも写真によって観る訓練を積むことが必要です。概説を引き写しただけのレポートは評価しません。自身の観察したもので裏付けしつつ文献を読むように努めて下さい。

【参考文献】

- 1『日本美術館』小学館、1997 ほか美術史概説書類
- 2『原色図典 日本美術史年表』集英社、1986 ほか美術史年表類
- 3『日本美術全集』講談社、1990—1994 ほか大型日本美術の全集類

【レポート作成上の注意点】

インターネットを利用する場合、引用するなら文責者が明示されているものに限りです。ある著書からの引用なら、原本を参照すること。大事なことは、だれの意見なのかを明示することで、参考書の内容を自身の考えのように引き写さないこと。「だれそれはこう述べているが、自分はこれこれの理由でこう考える」といった論調が好ましい。したがって、本文中に引用を行う場合は必ず註を付け、最後に参考文献を挙げること。

また、レポートは感想文ではないということを忘れずに。

【成績評価方法】

科目試験による。

社会学史Ⅰ

（市販書採用科目）（L 081-9791）〔2単位〕

【テキスト】

那須壽編『クロニクル社会学』有斐閣アルマ、1997年

【講義要綱】

「社会学史Ⅰ」では社会学の歴史の全体を概観する。おおまかに言えば、社会学の歴史は、サン＝シモン、コント、マルクスらの第一世代とともに始まり（誕生期）、デュルケム、ウェー

バー、ジンメル、ミードらの第二世代によって確立され（成立期）、パーソンズ、マンハイム、シュッツ、ブルーマーらの第三世代によって展開され（展開期）、そしてルーマン、コールマン、ハーバーマス、フーコー、ゴフマン、ガーフィンケル（エスノメソドロジー）、ブルデュー、ギデンズら現代の社会学者たちへと受け継がれている。まずこの社会学の流れの全体像を把握し、そのうえでいずれかひとりの社会学者をとりあげて、その社会学者の学説をさらに深く掘り下げて理解することがこの講義の目的である。

【テキストの学習方法】

まずテキスト（『クロニクル社会学』）を通読して社会学の歴史の全体像を把握する。そのうえでテキストで取り上げられている社会学者から、関心をもった社会学者をひとり選んで、テキストの「読書案内」にしたがって、さらにその社会学者の学説について研究を深める。

【参考文献】

わからない用語がでてきたときに自分で調べられるよう、以下の小辞典のうちいずれかを手元に置くことが望ましい。

『岩波小辞典社会学』 岩波書店

『社会学小辞典』 有斐閣

社会学全般に関しては、

長谷川公一・浜日出夫ほか『社会学』 有斐閣

【レポート作成上の注意点】

「社会学史Ⅱ」と同一の文献を選択することはできない。

分量は4000字以内。ただし1割程度の誤差にとどめること。ワープロを使用する場合は、末尾に総字数を明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

社会学史Ⅱ

（市販書採用科目）（L 082-9591）〔2単位〕

【テキスト】

徳永恂・厚東洋輔編『人間ウェーバー』 有斐閣双書、1995年

【講義要綱】

「社会学史Ⅱ」では、社会学の歴史全体を概観した「社会学史Ⅰ」をふまえて、第二世代の代表的な社会学者のひとりであるマックス・ウェーバーをとりあげ、その社会学の特徴をさらにくわしく考察する。したがって受講者は「社会学史Ⅰ」の単位を修得済みであることが望ましい。

ウェーバーの業績は、(狭い意味の)社会学にとどまらず、宗教研究、政治論、学問論など広範な分野にまたがる。まずウェーバーの業績の全体像を概観したうえで、いずれかひとつの分野をとりあげて、その分野におけるウェーバーの仕事をさらに深く掘り下げて理解することがこの講義の目的である。

【テキストの学習方法】

まずテキスト(『人間ウェーバー』)を通読してウェーバーの業績の全体像を把握する。そのうえでテキストの「読書案内」にしたがって、関心をもった分野におけるウェーバーの著作をひとつ選び、その著作を通してさらにその分野についての研究を深める。

【履修上の注意】

「社会学史Ⅰ」の単位を修得済みであることが望ましい。

【参考文献】

「社会学史Ⅰ」と同じ。

【レポート作成上の注意点】

「社会学史Ⅰ」と同一の文献を選択することはできない。

分量は4000字以内。ただし1割程度の誤差にとどめること。ワープロを使用する場合は、末尾に総字数を明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

社会心理学

(L 087-0301)〔2単位〕

【講義要綱】

最初に「社会心理学とはどのような学問か」を歴史や方法を概観しながら理解する。その上で、個人の問題から社会の問題と順に展開する。まず、社会における個人の問題として「欲求と動機づけ」「自己」「社会的認知」の問題を扱う。次に、個人と個人の関係について「説得と態度変容」「対人魅力」「対人交渉」「攻撃と援助」などを学ぶ。最後に集団や社会について「リーダーシップ」「集団での意思決定」「マスコミュニケーション」「イノベーションの普及」などを学ぶ。社会心理学が扱う対象は私たちの暮らしの中で見出される現象を取り上げているので、身近な現象を想定しながらテキストや参考書をよく読み、理解を深める。

【テキストの読み方】

まず第1章で社会心理学を概観するが、最初は細部までこだわる必要はない。2章以降については順に読み進めるのが基本だが、関心のある章から順に読んでいってもよい。一通り読んだところで再び1章を読むと社会心理学の全体がよくわかる。

【履修上の注意】

テキスト以外に社会心理学関係の参考書を少なくとも1冊は選び、読んでみてください。概論的なものでなく興味のある分野のものでも構いません。

【関連科目】

心理学Ⅰ—基礎過程—

心理学Ⅱ—実験・測定・モデル—

【参考文献】

安藤香織・杉浦淳吉（編著）『暮らしの中の社会心理学』ナカニシヤ出版、2012年

遠藤由美（編著）『社会心理学：社会で生きる人のいとなみを探る』ミネルヴァ書房、2009年

亀田達也・村田光二（著）『複雑さに挑む社会心理学：適応エージェントとしての人間（改訂版）』有斐閣、2010年

【レポート作成上の注意点】

日常的に経験することや社会現象について、社会心理学的に説明できることを目標とします。したがって、まずは自分自身の経験を社会心理学の理論を用いて自分のことばで説明できるよう心がけてください。社会現象はとらえ方によって複数の見方ができます。複数の理論で説明するというのは1つの現象を多角的に捉えるということです。

テキストや参考書の中には、社会心理学の理論によって説明される具体例が掲載されていることもあります。そうした例を使用する際には、必ず引用箇所を明示し、それに類似した自分が経験した事例についても理論的に説明するようにしてください。インターネットで知識を得る場合も同様です。インターネットの活用も大事なことですが、出典を明示した上で引用は最小限にとどめ、必ず自分自身のコメントをつけるなど考察の材料となるようにしてください。社会現象を説明するための参考書は、社会心理学以外のものを用いることもできます。その場合も社会心理学的な考察を必ず加えてください。

レポートにはその内容を端的に表すタイトルをつけてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

都市社会学（L）

（市販書採用科目）（L 090-9991）〔2単位〕

【テキスト】

藤田弘夫・吉原直樹編『都市社会学』有斐閣、1999年

【講義要綱】

本科目は都市の多様な側面を社会的に理解することを目的とする。テキストに即して、次の順序で議論していく。

序 章 都市社会学の方法と対象

第Ⅰ部 都市の活動と世界

第Ⅱ部 住民活動とコミュニティの形成

第Ⅲ部 生活世界と都市文化の変容

第Ⅳ部 都市の計画と管理

終 章 都市社会学の新しい課題

名著解題

【テキストの読み方】

テキストについては、全部の章を正確に熟読してください。マテリアルやコラム、名著解題まで試験の範囲に入ります。

【履修上の注意】

持ち込み不可ですので、内容について自分でまとめてください。単にキーワードの暗記だけでなく、内容を論じる問題になります。

【参考文献】

各章の終わりに掲載されている文献を参考にしてください。他に次のようなテキストも参考になります。

- ・ 町村敬志・西澤晃彦『都市の社会学』有斐閣、2000年
- ・ 園部雅久・和田清美編著『都市社会学入門』文化書房博文社、2004年

【レポート作成上の注意点】

レポートの分量は、4000字以内にしてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

心理学Ⅰ—基礎過程—

(L 048-7902、L 7960)〔2単位〕

【講義要綱】

ここでは、感覚、知覚、認知、記憶、学習、動機づけ、感情などの基礎過程に関する個体の心理について学習する。ただし個体の心理といっても、知能・性格などの個体差についてではなく、個体に共通な一般的性質をとり上げる。

テキストは行動の科学としての心理学という視点から述べられているが、心理学の諸学説を紹介するのも、特定の学説による主張をしようとしたのではない。むしろ、心理学が扱ってきた基礎過程に関する事実としての研究成果を、この視点から系統づけようとしたものであり、既に得られた心理学の知識を改めてこの視点から考えてみていただきたい。(テキス

トまえがきより一部改変)

【テキストの読み方】

専門用語を1つずつ、参考文献を利用しながら理解していくことが重要である。

【履修上の注意】

総合教育科目で心理学を修めたこと、もしくはそれと同等の学力を有していることを前提として、テキストは書かれている。

【参考文献】

中島義明ほか編『心理学辞典』有斐閣、1999年

J. E. メイザー著『メイザーの学習と行動（日本語版第3版）』二瓶社、2008年

【レポート作成上の注意点】

1. 参考文献を明らかにしていないレポートは採点できない。
2. 他人の著作を丸写しにただで、自分の見解のないレポートは、それだけで不合格となる。
3. 内外の学術論文を事前に充分参考とすることで書きはじめる前にレポートを構成する図表や、論文の書き方をよく理解すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

心理学Ⅱ—実験・測定・モデル—

(L 042-7702、L 7761)〔2単位〕

【講義要綱】

この科目は、基礎の心理学の重要な研究方法である実験・測定・モデルについて学ぶことにより、実証科学としての心理学の考え方を理解することを目的とする。したがって履修者は、個々の現象や実験結果の細かい点に気を取られすぎずに、どうしてそのような実験が必要となったのか、実験結果からどのようにしてどのような考察が引き出されたのか、といった研究における考え方の流れを、論理的に筋道立てて理解するよう努力してほしい。

本テキストは書かれてからかなりの年月が経過し、その間に心理学は大きな発展を遂げている。その意味からもテキストだけを勉強するのではなく、下記の参考書などを十分に活用して勉強してほしい。特に(1)『認知心理学を知る』からは、毎回かならず科目試験の問題が出題されるので、テキストとあわせて十分に勉強しておく必要がある。

【テキストの読み方】

本テキストは独学で学ぶには非常に難解で、数学や統計学の基礎知識もある程度高い水準のものが要求される。もちろんある程度の数学・統計学の知識は心理学を学ぶ上で必要なも

のである。しかし、本科目の履修に際しては、数式や数学的手法を完全に理解することよりも、考え方・精神を理解することに主眼を置いてほしい。

【履修上の注意】

履修者は、参考文献（1）の『認知心理学を知る』をあわせて勉強することが要求される。科目試験では、テキストのみではなく、この文献からも問題が出題される。また、ある程度の数学・統計学の知識があることが望ましい。最低限、総合教育科目の統計学、あるいは文学部専門教育科目の心理・教育統計学を修得している必要がある。

【関連科目】

「統計学（A）（総合教育科目）」、「心理・教育統計学（文学部専門教育科目）」

【参考文献】

- (1) 市川・伊東編『認知心理学を知る 第3版』おうふう、2009年
- (2) 井上・佐藤編『日常認知の心理学』北大路書房、2002年
- (3) 太田信夫『記憶の心理学』放送大学教育振興会、2008年

【レポート作成上の注意点】

レポートの作成に際しては、読者として「心理学Ⅱ」の授業を履修する基礎学力は持っているが、まだ履修前の学生を想定すること。実験の紹介は、目的、方法、結果、結論に分けて簡潔、かつ明瞭に記すこと。紹介する研究は、原則として専門誌などに掲載された論文に直接あたること。心理学研究、認知心理学研究、基礎心理学研究などの雑誌が読みやすいと思われる。ウェブ上でCiNii Articlesなどのデータベースを利用するのもよい。引用・参考文献はもらさず記す。その際、形式はテキストや参考書などに倣い、標準的な方法にして一貫性を保つこと。横書きに限る。

【成績評価方法】

科目試験による。

教育学

(L 073-9301、L 9383)〔3単位〕

【講義要綱】

いわゆる狭義の「教育」は人間形成の過程（学び）への意図的な介入として定義づけることができます。したがって「教育学」とは、こうした「教育」という視座に立つことによって、そこで生ずる実践上の様々な問題や理論的諸問題を解決しようとして成立したまずは「術」であり、またその反省としての学問と考えることができます。つまり教育学とは「教育問題」の科学なのです。この科目ではこうした考え方すなわち「学問知」の成立や構造を理論的かつ歴史的に考察することが履修上の目標です。概念史的に見て「教育」という概念

はいついかなる状況下で成立したのか、またその意味は何かを問うことの上で、その説明の仕方には歴史上様々のものがあり、それらはいくつかの類型に分類することができます。それらの説明の歴史と類型を踏まえて、さらに私たちは、この「教育」をどのように説明したからより適切な説明であるのか、その理論的提案を吟味します。さらに、この理解に立って、教育学上の主要問題のいくつかを分析・吟味することになります。

以上のような趣旨を十分に理解された上で、とりわけ現代の教育に思想的にも現実的にも直接の繋がりのある、17、18世紀に成立したいわゆる「近代教育理論」の形成と過程と理論構造の検討がこの科目の焦点となることは言うまでもありません。この世紀こそ「教育の世紀」と呼ばれるほど、子どもへの関心そして新たな教育への関心が増大し、また質的な発展を見せた時期はありません。この時期に誕生を見た近代教育学は多くの新しい示唆と観方を生み出しましたが、その一方で今日の近代教育批判にかかわる多くの問題性を潜在的に持っていました。したがってこの講義の履修を希望される方にはテキストの記述を参考に自からロックやカント、ルソーやヘルバルトさらにはデューイなどの言説を、古典的テキストを熟読吟味することを介してこうした問題性を考慮しながら批判的に考察して頂けることを期待します。

【関連科目】

「教育思想史」

【参考文献】

田中智志・今井康雄編『キーワード 現代の教育学』東京大学出版会、2009年

中内敏夫『教育学第一歩』岩波書店、1988年

村井実『「善さ」の復興』東洋館出版社、1998年

* 絶版本は図書館で借りるか、インターネットの古書サイトで入手可能。

【レポート作成上の注意点】

まず、レポート課題は何を問うているかを正確に理解すること。

次に、テキストを丹念に読み込んだ上でその正確な理解に立って課題の問いに応じた学習活動（参考文献の読み込みなど）を展開し、課題の問いに則してレポートを作成すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

新・教育心理学

(L 114-1301)〔2単位〕

【講義要綱】

教育という人間に特有の学習のあり方の科学的解明をめざすのが教育心理学である。「発達」「学習」という基本的な心理学的メカニズムの理解の上に、学習環境と教育実践に関する

る認識を深めてもらうことが本テキストの目的である。内容は古典的な学説から最新の知見まで含まれ、多数のコラムも加わって、教育心理学の多面性を学ぶことができるだろう。

【テキストの読み方】

テキスト本文の学習だけでなく、コラムにも関心を寄せて、具体的な事例を想定しながら理解を深めてほしい。

【参考文献】

並木博編著『教育心理学へのいざない（第3版）』八千代出版、2008年
鹿毛雅治編『教育心理学（朝倉心理学講座）』朝倉書店、2006年

【成績評価方法】

科目試験による。

新・教育史

(L 117-1401)〔4単位〕

【講義要綱】

「教育」の史的展開をマクロなレベルでとらえるならば、それを、①「習俗としての教育」（生活空間の中に教育空間が包摂される段階）、②「組織としての教育」（教育が一定の組織を通して行われる段階。階層差・地域差・性差などの偏差が存在）、③「制度としての教育」（②の段階に残されていた偏差を解消し、全国民子女を対象に組織的な教育が行われる段階）、という三つの段階を辿ってきたものと理解することができる。そして、今日の日本の教育が③の段階を基軸とするものであることは論を俟たない。

だが、①から③への教育史の進展は、これを単純に「進歩」や「発展」としてのみ評価できるものではなく、①や②の段階に包含されていた様々な教育的価値を切り捨てることで、③の段階の教育が成立したという見方も成り立つ。地域（共同体）の教育力の低下が叫ばれたり、子どもの学習意欲の低下が問題視されたりすることも、その一つの証左といえる。

本テキストは、この国において、近代以後に「制度としての教育」が確立・整備されてきたこと、しかもその教育制度が「国家による国民形成」として行われてきたことに着眼点を置き、その意味での日本の「近代教育」にどのような教育上の問題を認めることができるのか、に重大な視線を注いでいる。さらに、国家による国民形成としての「近代教育」をもって、唯一絶対の教育様態と理解するような発想を相対化し、教育のあり方を多様な視角から追求する必要を論じている。

履修者には、上記①②③の次の段階に到来することが期待される「教育のかたち」を追求することを目指して、テキストの叙述内容に思想的格闘を挑まれることを期待したい。未来を切り拓くための示唆は常に歴史のうちにある、ということを踏まえて。

【テキストの読み方】

個々の教育史事例を、絶えずより大きな教育史の流れの中に位置づけながら理解することに心掛けてほしい。

【履修上の注意】

テキストまたはスクーリングで「教育学」を履修していることが望ましい。なお、日本史の知識については、高等学校の教科書程度のものがあれば問題ない。

【関連科目】

「教育学」「教育思想史」「教育心理学」

【参考文献】

天野郁夫『大学の誕生（上）（下）』中央公論社、2009年
 沖田行司編『人物で見る日本の教育』ミネルヴァ書房、2012年
 海後宗臣・仲新『教科書でみる近代日本の教育』東京書籍、1979年
 『講座日本教育史』全5巻、第一法規、1984年
 佐藤秀夫『教育の文化史』全4巻、阿吽社、2004年
 辻本雅史・沖田行司編『教育社会史』山川出版社、2002年
 辻本雅史『「学び」の復権』岩波現代文庫、2012年復刊
 山住正己『日本教育小史』岩波書店、1987年

これら以外については、〈<http://www.flet.keio.ac.jp/~bibiken/mita-tetsu/>〉の日本教育史文献案内を参照されたい。

【レポート作成上の注意点】

一つには、実証的な内容であることに留意すること。そのため、歴史事象の記述についてはできる限り第一次資料に基づいて出典を明記してほしい。もう一つには、教育史の流れを大局的に把握すること。そのため、時代背景を踏まえるとともに、事象が生起するに至るまでの歴史的経緯をよく理解してほしい。また、当該事象の今日的意義やその後の歴史に与えた影響を視野に含めた記述内容であることも必要である。

【成績評価方法】

科目試験による。

教育思想史

(L 046-7902、L 7992)〔4単位〕

【講義要綱】

現代教育の理念的基盤が成立した18、19、20世紀のヨーロッパとアメリカの教育思想、人間形成論の特徴を、古代、中世、近世の教育思想との比較の中で理解してもらうことを目指

している。その際、特に政治や社会や文化との関係に着目し理解することを期待している。

【テキストの読み方】

全体を通読した上で、直接、課題のテーマにかかわる18世紀以降の部分を精読すること。

【履修上の注意】

教育学に関する基礎知識、西洋史の知識を学んだ上で履修するのが望ましい。

【関連科目】

教育学

【参考文献】

宮澤康人『近代の教育思想』（3訂版）放送大学教育振興会、2003年

宮澤康人『教育文化論』放送大学教育振興会、2002年

今井康雄編『教育思想史』有斐閣、2009年

【レポート作成上の注意点】

取り上げる思想家の著（翻訳書可）一冊と、その思想家についての研究書を一冊読了した上で、レポート作成に取り組んでほしい。

【成績評価方法】

科目試験による。

教育社会学

（市販書採用科目）（L 107-1091）〔2単位〕

【テキスト】

久富善之・長谷川裕編『教育社会学（教師教育テキストシリーズ5）』学文社、2008年

【講義要綱】

現代日本社会における教育を主たる対象として、社会的背景と関連させて教育的事象を捉える能力を身につけることが本科目の目標です。社会学が対象とする教育（現象）の多様さと広がりを確認した上で、それらは一見個々別々の事象ですが、近代社会という共通土台の上に成立している社会的事象であることを理解することが目標です。

加えて、その近代社会が行き着いた先に現代社会があり、近代の完成・成熟としての現代という時代変化への着目が重要です。教育社会学は教育現象を対象とする社会学ですが、教育という社会現象から現代社会を理解する社会学でもあります。よって、制度としての学校教育に対象が限定されず、若者の生き方、就職（移行）、子育て、階層の再生産、ナショナルリズムなどについても教育社会学的考察の対象となるのです。

【テキストの読み方】

テキストは複数の研究者によって執筆されており、テーマも多岐にわたっています。しか

し、テキストを通じての問題意識は共有されています。近代学校がどのように形成され、発展してきたか。そして、現代社会において学校教育がどのような問題を抱え、どのような改革が模索されているのか。過去・現在・未来の関係をつかむことが大切です。「教師」についても複数箇所にて記述があります。今回のレポート課題である、「教師」というテーマをテキスト全体の問題意識に位置づけて読解してください。

【履修上の注意】

履修しておくべき科目は指定しませんが、社会学と教育学の基礎知識があるとよい。これら2つの学問に関連する科目をそれぞれ1つ以上履修した上で、本科目を履修することを推奨します。

【関連科目】

上記の「履修上の注意」を参照。

【参考文献】

1. 教育科学研究会編『現代教育のキーワード』大月書店、2006年
2. 油布佐和子編著『教師という仕事（リーディングス 日本の教育と社会 第15巻）』日本図書センター、2009年
3. 久富善之編著『教師の専門性とアイデンティティ』勁草書房、2008年

【レポート作成上の注意点】

1. 課題は2つに分かれています。 (1) と (2) が有機的に関連付けられている事が求められていますので、一連の課題であると考えてください。(1) と (2) は混在させず、別個に記述してください。
2. テキストの理解を深めるために、参考文献で議論の補強を行ってください。また、テキスト各章末にある参考文献も活用してください。これらの作業の成果を含めてレポートを作成することは歓迎されています。
3. レポート記述におけるテキストおよび参考文献の引用・参照は、注による出典箇所の明示が（ページ数レベルまで）必要です。

【成績評価方法】

科目試験による。

心理・教育統計学

(L 070-9201、 L 9262) [3 単位]

【講義要綱】

広く行動科学の研究方法としての統計学の入門コースであるが、特に推測統計学の理論的背景を十分理解していただけるようにという願いをこめてテキストを執筆した。このテキス

トが使用されるようになって、レポートの質が高くなり、また科目試験の成績も良くなっているといった印象を受けることを喜んでいきます。

【参考文献】

並木博『個性と教育環境の相互作用—教育心理学の課題』培風館、1997年
芝祐順・南風原朝和『行動科学における統計解析法』東京大学出版会、1990年

【成績評価方法】

科目試験による。

史学概論

(L 027-7403、L 7470)〔2単位〕

【講義要綱】

歴史学は実証と構想との狭間で展開される総合の学である。史学概論はそのような総合の学としての歴史学の認識論的基礎や歴史観の歴史を学ぶ科目である。

【テキストの読み方】

本課題は理論的課題であるため、テキストならびに参考書を熟読し、何が問われているかをよく理解することがレポート作成の前提である。

【参考文献】

E. H. カー『歴史とは何か』岩波新書
A. Я. グレーヴィッチ『歴史学の革新—「アナール」学派との対話』平凡社、1990年
カルロ・ギンズブルク『歴史・レトリック・立証』みすず書房、2001年
新井・松村・本多・渡辺『「事実」をつかむ—歴史・報道・裁判の場から考える』こうち書房、1977年

【成績評価方法】

科目試験による。

歴史哲学

(L 014-6702、L 21、L 6756)〔2単位〕

【講義要綱】

西欧の哲学者たちは歴史をどのように考えてきたのか。歴史哲学の中心的テーマ「歴史における自由と必然の関係」を通して西欧の歴史哲学の基本的発想を学ぶ。

【履修上の注意】

「西洋哲学史Ⅱ—近世・現代—」をあわせて履修することが望ましい。

【参考文献】

ヘーゲル著、長谷川宏訳『歴史哲学講義』岩波文庫
ヘーゲル著、三浦和男訳『精神の現象学序論』（訳者まえがき）未知谷、1995年
プレハーノフ『歴史における個人の役割』岩波文庫
コンスタンチン・グリアン『ヘーゲルと危機の時代の哲学』御茶の水書房、1983年
マルクス、エンゲルス『ドイツ・イデオロギー』合同出版、1970年
中野徹三『マルクス主義と人間の自由』青木書店、1977年

【成績評価方法】

科目試験による。

日本史概説 I

(市販書採用科目) (L 091-9692)〔2単位〕

(第1回)

【テキスト】

五味文彦・本郷和人・中島圭一著『日本の中世』放送大学教育振興会、2007年

【講義要綱】

源平の合戦・南北朝の内乱・戦国の争乱などに象徴されるように、中世は日本全体が大きく変動した時代でした。しかし、決して徒に戦乱に明け暮れていただけではなく、政治・経済・社会・文化など様々な面で、現代に直結する要素が歴史の表面に浮かび上がってくる時代でもありました。ただテキストを読むだけでもなかなか面白いのではないかと思います、さらに別掲の参考書や専門書などで知識と理解を深めて下さい。

【参考文献】

地域の歴史にアプローチする出発点となるのは、『～県の地名』（平凡社）や『角川日本地名大辞典』です。さらに詳しく調べるには、各自治体で編纂した『～県史』『～市史』の類が有用でしょう。いずれも近隣の図書館で探してみてください。また、テキストの内容を深めるためには、講談社版『日本の歴史』第07～15巻や『日本の中世』全12巻（中央公論新社）を、最新の優れた通史として薦めます。

【レポート作成上の注意点】

周辺が中世には何という荘園（あるいは公領）だったのか、何という名前の武士（あるいは百姓・商人・職人など）がどのような活動をしていたのか等々、かなり具体的な地域史像を打ち出して下さい。そして同時に、単なる郷土史に終わってしまわないよう、当時の日本全体の情勢の中に、その地域の歴史を置いて論ずることが必要です。なお、海外在住者や北海道民など、現住所の中世を探るのが困難な場合は、何らかの形で自分とゆかりのある土地の中世史をレポートのテーマとして結構です。

(第2回)

【テキスト】

鳥海靖『日本の近代』放送大学教育振興会、1996年

【講義要綱】

幕末開国期以降、戦後の高度成長を経て現在に至るまでの日本近代における、それぞれの時期における特徴を、政治・経済・社会・文化など多様な視点から把握し、世界史全体の流れの中に位置づけるよう努めてください。

【テキストの読み方】

テキストはいくつかのテーマに分けて執筆されているので、適宜参考文献で補いつつ、日本近代史全体の流れを把握するようにしてください。

【参考文献】

『日本の近代』全16巻、中央公論新社

『日本の歴史』20～25巻、講談社

『日本の歴史』12～16巻、小学館

【レポート作成上の注意点】

テキストや参考文献の抜き書き、コピーをせずに、自分の言葉と文章とで表現するように努力してください。また、ウェブ・サイトの記事を利用する際には、根拠となる資料に当たるなど、十二分に注意し、出典が明らかでないものは利用を控えるようにしてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

日本史特殊Ⅰ—日本法制史— (L 092-0401)〔2単位〕

【講義要綱】

日本古代の律令国家は天皇を頂点とする中央集権的な国家機構のもとに、唐制を範とした律令諸制を採用していた。しかし、その実態は唐制と全く同じものではなく、そこには大化前代からの氏族制的な要素が残されている。日本の律令国家が律令制と氏族制の二元的な性格をもっているといわれるゆえんである。従って、律令国家の諸制度を理解するためには、大化前代の大和王権における諸制度についても理解する必要がある。

テキストでは大化前代から律令制へ、さらに平安時代までの法の変遷を辿っている。日本古代における国家の法や制度の成立過程を辿り、日中律令制を比較することで日本古代国家の特色を理解することが学習の目的である。

【テキストの読み方】

テキストは自主的な学習の発展に期待する意味で最小限の事柄だけを記しています。参考書と関連させて自分自身で内容の理解を深めて下さい。

【履修上の注意】

法制史に限らず日本古代史に関する概説書を読んでおいて下さい。

【参考文献】

- 浅古弘ほか編『日本法制史』青林書院、2010年
 利光三津夫・長谷山彰『新裁判の歴史』成文堂、1997年
 長谷山彰『日本古代の法と裁判』創文社、2004年
 吉田孝『古代国家の歩み』（小学館ライブラリー『大系日本の歴史』）小学館、1988年

【レポート作成上の注意点】

参考書の使用について：『塾生ガイド』（または『教職課程履修案内』）所収、「レポート作成上の注意」の中に記されているように、「利用した参考書については、必ずその書名および執筆者名を記し」、参考書からの引用文については「注1」等の記号を用い、レポート本文中に注記を付して自分の文章と区別して下さい。またテキストのほかに、参考書は最低2冊以上利用してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

日本史特殊Ⅱ
—キリシタン史—

（市販書採用科目）（L 110-1191）〔2単位〕

【テキスト】

五野井隆史『日本キリスト教史』吉川弘文館、1990年

【講義要綱】

16世紀中葉に日本にキリスト教が伝えられてから17世紀中葉の「鎖国」によって南欧のキリスト教国との関係が途絶えるまでの約1世紀間は、「キリシタン時代」または「キリシタンの世紀」と呼ばれている。この科目では、この時代の歴史を対象とする。

【テキストの読み方】

テキストを読むにあたっては、キリシタン史の全体像を理解することと、いくつかの個別の問題に対する理解を深めることに留意してもらいたい。

【参考文献】

東京大学史料編纂所編纂『日本関係海外史料 イエズス会日本書翰集』訳文編、東京大学

史料編纂所、1990年～

松田毅一監訳『十六・七世紀イエズス会日本報告集』第3期（全7冊）同朋社、1991～1998年

高瀬弘一郎『キリシタンの世紀—ザビエル渡日から「鎖国」まで—』岩波書店、1993年

高瀬弘一郎『キリシタン時代の研究』岩波書店、1977年

五野井隆史『日本キリシタン史の研究』吉川弘文館、2002年

パチェコ・ディエゴ（佐久間正訳）『長崎を開いた人—コスメ・デ・トーレスの生涯—』中央出版社、1969年

【レポート作成上の注意点】

レポート作成にあたっては、「史料」と「研究」を区別してもらいたい。

【成績評価方法】

科目試験による。

日本史特殊Ⅳ

（市販書採用科目）（L 111-1191）〔2単位〕

【テキスト】

浜野潔・井奥成彦・中村宗悦ほか『日本経済史 1600-2000』慶應義塾大学出版会、2009年

【講義要綱】

テキストには、江戸時代から現代に至るまでの日本経済の流れが記されているが、日本の江戸時代がどのような「近代」を準備し、日本の近代はいかなる歩みをして現代に至っているのかということに留意しながら読んでほしい。

【テキストの読み方】

まずテキストを理解すること。読んでいって、難しいと感じる部分もあるかもしれないが、その場合は、日本史や経済学の辞典類を参考にしながら、できるだけ問題を解決してほしい。おおよそ理解できたら、勉強の場を関連図書類（テキスト末尾の参考文献参照）に拡げ、理解を深めるとともに、関心を拡げてほしい。

【履修上の注意】

高等学校レベルの日本史の知識と、経済学の基礎的な概念や理論をある程度知っておいた上で履修することが望ましい。

【参考文献】

井奥成彦『19世紀日本の商品生産と流通』日本経済評論社、2006年

その他、テキストに掲載されている諸文献

【レポート作成上の注意点】

どこからどこまでが他人の説で、どこからどこまでが自分の説（考え）なのかがはっきりわかる書き方をすること。他人の説の引用については、必ず注を付けること。

【成績評価方法】

科目試験による。

古文書学

(L 052-4902、L 29)〔2単位〕

【講義要綱】

古文書学とは、日本史研究の材料となる古文書について考える学問であり、日本史を学ぶ上での基盤となるものです。日本史に関する卒業論文の執筆を予定している学生は、是非とも履修して下さい。本テキストは文体が古風なため、読んで理解するにはいささか努力が必要かもしれませんが、古文書学の体系を要領よくまとめた名著として知られているものであり、別に示した参考書も積極的に活用しながら、学習を進めて下さい。

【テキストの読み方】

まず第一～三章にひととおり目を通した上で、このテキストの学習の中心となる第四・五章に進みます。第四章は古文書を主に形態学的観点から分析したもので、限られた紙数に要点がまとめられています。第五項については、佐藤進一『花押を読む』（平凡社）をあわせ読むと理解しやすいでしょう。第九項の中の「特殊用語」は、指定参考書として掲げた佐藤進一『新版古文書学入門』等に豊富に掲載された古文書の実例に即して見ると、頭に入りやすいと思います。第五章については、やはり『新版古文書学入門』の記述が詳しいので、適宜参照しながら学習を進めて下さい。

【履修上の注意】

日本史に関する一般常識がなくては、十分な学習が望めません。「歴史（日本史）」を既に履修していることが望ましい。

【科目試験出題用指定参考書】

佐藤進一『新版古文書学入門』（法政大学出版局、2003年）

【参考文献】

古文書の種類については、佐藤進一『新版古文書学入門』（法政大学出版局、2003年）が詳しいので、是非とも参照して下さい。古文書を読む能力を養っていく上では、『演習古文書選』全8冊（吉川弘文館）などの古文書写真集や各種史料集が有用です。史料の読解に用いる国語辞典としては『日本国語大辞典』（小学館）、漢和辞典としては『大漢和辞典』（大修館書店）、日本史辞典としては『国史大辞典』（吉川弘文館）が優れているので、近隣の図

書館等で利用して下さい。くずし字辞典としては『五体字類』（西東書房）、『くずし字用例辞典』『くずし字解説辞典』（東京堂出版）などがあります。

【レポート作成上の注意点】

古文書の実物は、各地の博物館に足を運んで探してみてください。東京・京都・奈良・九州（福岡県太宰府市）の各国立博物館や国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）・国立公文書館（東京都千代田区）、あるいは都道府県立の歴史博物館には常設で展示してある可能性が高いほか、市町村の博物館や寺社付設の資料館・宝物館にも古文書を所蔵・展示しているところがあります。また、毎年秋には奈良国立博物館で正倉院展、京都府総合資料館で東寺百合文書展が開かれ、鎌倉の建長寺・円覚寺では文化の日前後の風入れ（虫干し）期間に所蔵文書が数日公開されており、そのほか古代・中世の歴史に関わる特別展があれば普通は何か出陳されています。

古文書の様式については、前掲の『新版古文書学入門』を必ず参照して下さい。内容については、博物館等の図録だけでなく、古代・中世の歴史に関する通史（最新のものとしては講談社版『日本の歴史』や中央公論新社『日本の中世』など）や専門書、あるいは関係する地域の自治体が編纂した『～県史』『～市史』の類を探して、詳しく調べて下さい。

レポート・試験ともに、学問の性格上、古文と漢文の読解力が要求されます。こまめに各種の辞典（国語・漢和・日本史・古文書など）を引くことで、そうした能力を身に付けて下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

東洋史概説 I

(L 031-7601、L 7679)〔2単位〕

【講義要綱】

近年、中国大陸では竹簡・木簡などをはじめとする「出土資料」が陸続と発見されており、現代の私たちがおよそ2000年前の世界を垣間見ることができるようになっています。しかも、1万枚を超える竹簡が発見されるなど、分量的に膨大なものもあり、また、内容的にも歴史・思想・医学・地理など多岐にわたっているため、これまで文献史料では知ることのできなかつた内容が次々と明らかになっています。その意味で、現在、中国古代史を研究する上で、「出土資料」の存在は欠かせないものになりつつあると言えるでしょう。

このような古代史研究の現状をふまえ、文献史料を中心とした中国古代史の基礎的な知識を指定されたテキストで学習するとともに、参考文献などで出土資料に関する知識を身につけ、より多角的に中国史を捉える視点を養ってほしいと思います。

【参考文献】

富谷至『木簡・竹簡の語る中国古代—書記の文化史—』岩波書店、2003年
湯浅邦弘『諸子百家—儒家・墨家・道家・法家・兵家』中公新書、2009年
横田恭三『中国古代簡牘のすべて』二玄社、2012年

【レポート作成上の注意点】

参考文献や WEB ページなどを引用または参考にした場合は、その箇所には必ず注をつけて自分の意見とは区別すること。また、最後に注の一欄を作り、その出典および引用ページ数を明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

東洋史概説Ⅱ—中国史— (L 086-0301)〔2単位〕

【講義要綱】

近代において外国との関係が増すにつれて、中国の産業構造は大きく変わりました。とりわけ綿業（綿紡績業、綿織物業）は、機械の導入による生産力の向上や、世界的な原綿価格の変動などにより、絶え間なく変化しました。その影響は経済だけでなく、政治や社会など様々な分野にも及びました。一方で、そうした変化の進度が地域によって差があったことも、当時の中国を見る上で重要です。以上のような動きを考察して、伝統中国から近代へと移行していく過程をとらえてください。

【テキストの読み方】

テキスト全巻を通読して中国史の全体像をよく把握してください。その上で、参考文献の②～④などの概説書を読み、中国の近代がどういう時代であったかを理解し、⑤⑥などの参考文献で課題にそった学習をしてください。その他の参考文献は、テキスト末尾の「研究の手引き」や①の第1部第9・10章を参考にして自分で探してください。

【参考文献】

- ①礪波護・岸本美緒・杉山正明編『中国歴史研究入門』名古屋大学出版会 2006年
- ②吉澤誠一郎『清朝と近代世界—19世紀』（シリーズ中国近現代史①）岩波新書 2010年
- ③川島真『近代国家への模索—1894-1925』（シリーズ中国近現代史②）岩波新書 2010年
- ④石川禎浩『革命とナショナリズム—1925-1945』（シリーズ中国近現代史③）岩波新書 2010年
- ⑤狭間直樹・岩井茂樹・森時彦・川井悟『データでみる中国近代史』有斐閣選書 1996年
- ⑥岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会 2013年

【レポート作成上の注意点】

テキストはもとより、なるべく多くの参考文献を読み、さまざまな見解を理解した上で、自分のことばでレポートをまとめてください。その際、レポートの記述内容が、どの参考文献のどの部分によっているのか、註で示してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

東洋史特殊

(L 098-0601)〔2単位〕

【講義要綱】

「東洋史特殊」は、これまであまり馴染みがないトルコ系諸民族の歴史を通観しながら近現代における中央アジア、アゼルバイジャン、トルコにおける民族主義、ナショナリズムの発展について述べたものである。ソ連邦の崩壊によってユーラシアのアジア側の部分でさまざまなかたちで民族問題が噴出している。それらの歴史的な背景をトルコ系諸民族の文化を探りながら考えていこうというのが、このテキストの目的である。イスラーム世界に関心のある人たちは、本書を通じて広大な地域に分布するアラブ民族とは異なるトルコ民族の世界に対する理解が深まるものと思われる。

【履修上の注意】

総合教育科目の「歴史（東洋史）」の学習を終えていること。

「東洋史概説Ⅱ」を履修していることが望ましい。

【関連科目】

「ロシアの政治」

【参考文献】

井筒俊彦『イスラーム文化』（岩波文庫）。これ以外の参考文献については教科書巻末の「文献案内」をまず参照し、それで不足と思われる場合は、ユネスコ東アジア文化研究センター編『日本における中東・イスラーム研究文献目録1868年-1988年』東洋文庫付置ユネスコ東アジア文化研究センター、1992年を参照のこと。なお、これは書籍の形以外では「東洋文庫」のホームページでも公開されている。パソコン画面で「東洋文庫」という検索語を入力するとこのページを見つけることができる。

【レポート作成上の注意点】

「レポート課題」に述べてある通り。ワープロによるレポート提出は認めない（不正を防ぐため）。

【成績評価方法】

科目試験による。

西洋史概説Ⅰ

(L 020-7201、L 7284)〔2単位〕

【講義要綱】

本概説は、西洋の古代・中世の時代を扱います。地中海を中心として発展した古代世界は、最終的にローマ帝国により政治的に統一されます。しかし、この古代的・地中海的統一世界は、その後古代から中世へと移行する過程で、イスラーム・ビザンツ（東ヨーロッパ）・カトリック（西ヨーロッパ）の三文明圏に分裂していきます。中世とは、現在でも少なからず妥当性を持つこのような三文明圏の発展の基礎が確立された時代に他なりません。この科目では、以上のような発展を理解するために、古代地中海世界と中世ヨーロッパ世界を概観します。

この主題についてさらに理解を深めるために、テキストの他に、堀越宏一ほか編『15のテーマで学ぶ中世ヨーロッパ史』（ミネルヴァ書房、2012年）および以下の参考文献も読んでください。

【履修上の注意】

総合教育科目「歴史（西洋史）」を履修していることが好ましい。

【関連科目】

「西洋史概説Ⅱ」「西洋史特殊Ⅲ」

【参考文献】

南川高志『新・ローマ帝国衰亡史』（岩波新書、2013年）を必ず読んでください。また、ピーター・ブラウン『古代末期の世界〔改訂新版〕』（刀水書房、2006年）、同『古代末期の形成』（慶應義塾大学出版会、2006年）、ベルトラン・ランソン『古代末期—ローマ世界の変容』（白水社、2013年）なども有益です。

【レポート作成上の注意点】

レポート作成のために、必ず上記の参考文献も読んで下さい。

レポートは、単にテキストと参考文献の丸写しや抜き書きではありません。自分自身の言葉でレポート課題の問題に対応した答となるよう作成して下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

この科目はおよそ16世紀から20世紀までの西洋史概説を扱います。小さな事実にとらわれないで、大づかみに歴史上の大きな課題や事件を、他との関連の中でとらえることを学習の目的とします。したがって、その課題や事件の特色や性格をとらえ、後代の歴史への影響や意義を考えることが肝要になります。

【テキストの読み方】

テキストに書かれている事実を表面的になぞって暗記するのではなく、テキストを理解のためのガイドブックとして使いながら、参考文献を読むようにしてください。テキストに簡略にまとめられている概念や事件の意味は、複数の文献を読むことを通してはじめて理解できると思います。

【履修上の注意】

総合教育科目「歴史（西洋史）」を履修していることが望ましい。

【参考文献】

福井憲彦『ヨーロッパ近代の社会史』岩波書店、2005年

柴田三千雄ほか編 世界歴史大系『フランス史2、3』山川出版社、1996、95年

村岡健次ほか編 世界歴史大系『イギリス史2、3』山川出版社、1990、91年

成瀬治ほか編 世界歴史大系『ドイツ史2、3』山川出版社1996、97年

*以下は今年度レポート課題用参考文献

山本秀行『ナチズムの時代』山川出版社：世界史リブレット49、1998年（必ず精読してください）

芝健介『ホロコースト』中公新書、2008年

ロバート・ジェラテリー『ヒトラーを支持したドイツ国民』みすず書房、2008年

【レポート作成上の注意点】

テキスト、参考文献から必要な知識を学び（＝理解し）、それを課題に応じて整理して、自分の言葉でまとめてください。その際、レポートの記述内容が、どの参考文献のどの部分によっているのか、きちんと注を付けて示してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

東西文化の交流というと、マケドニアの王アレキサンドロスの東征から始まるように語られることもよくあるが、実はそれよりはるか以前から行われていた証拠がある。紀元前2千年紀にギリシアで栄えたミケーネ文明の土器は、アナトリアやレヴァントなど西アジア世界の各地に見ることができる。前1200年頃、西アジア世界一帯の大国家が崩壊すると、ミケーネ文明も滅亡した。しかし、その末裔にはいわゆる「海の民」となった者たちがおり、ヒッタイトの鉄など、それまでの発達した文明の所産をこの地域全体に拡散させる役割を担ったようである。この「海の民」とその後のフェニキア人の関係は明確でないが、それまで主として陸上貿易を担っていたカナン人が海の民と接触することにより、積極的に海洋交易に出て行くようになった可能性もある。フェニキア人は、すでに前9世紀半ばにはキプロス島に植民市を作り、前9世紀後半には今のチュニジアのカルタゴにまで到達していたようである。彼らの影響は、スペインにまで及んだ。その後、アケメネス朝ペルシアとギリシアの間に戦争が起こると、フェニキア人はペルシア側の兵士として戦った。自分たちの交易圏をギリシア人に奪われたくなかったからである。アレキサンドロスの東征は、こうした関係のバランスを逆転させることとなった。フェニキア人は、今度はヘレニズム化し、尚も地中海貿易の担い手であり続けたからである。

【関連科目】

「オリエント考古学」

【参考文献】

周藤芳幸『図説 ギリシア エーゲ海文明の歴史を訪ねて』河出書房新社、1997年

【レポート作成上の注意点】

1. 参考文献もかならず活用すること。
2. 論理の流れと段落を意識して書くこと。
3. 議論、意見の根拠を明確に示すこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

本科目のテキストでは、イギリスが近代化しデモクラシーへと発展する基礎が築かれる過程が中心に論じられている。特に、他のヨーロッパ諸国と違う独自の型の近代化を推進する基礎条件が、中世にいかにか醸成されたかを書いたつもりである。イギリスでは、全体主義的王権や官僚組織の肥大化と硬直化といった弊害が比較的少ないのが特色だった。

イギリス史の特徴的発展の原因の一つとして、中世に一種の自主自営の「民」、即ち、ナイト、ジェントリー、スクワイヤー階層(いわゆる「独立自主の民」の原型)が生まれ発展したことが指摘されている。また、他国と比較して、都市と農村部の有力者層の利害の調和と融合が進行したことも注目に値する。改訂版では、この点をやや具体的に述べた。

もう一つ重要な点は、イギリス中世社会においては、貨幣経済の浸透と社会全体の商業化が早くから顕著なことである。この傾向はすでに12世紀に萌芽的な形で見られ、13世紀に中間層を中心として封建的身分が主として貨幣収益を基準に再編成されていった(たとえば「騎士強制」)。後には、さらに上級階層の分化も貨幣収益を軸に進められた。封建制度の中核的義務である。ナイト勤務も12世紀末以来、軍役代納金制度の導入により、金納化が進んだ。イギリスは保守的でありながら社会の進歩に遅れることがなかった。これは、中世以来、社会の中産層以上が、時代の進展に耐えるか主導する人々によって占められていたからである。彼ら、社会を主導する層が政治権力に寄生する度合いが比較的 low、自己の力に依存する度合いが強かったのである。

しかし、このような特色のために、逆にイギリス社会の中に激しい生存競争を生むことになった。ある意味では、これは、安定的成長の代償かも知れない。ここに歴史の真の過酷さがある。これを何らかの方法で緩和するために、社会福祉制度や弱者救済の思想が必要となり、教会の慈善の役割が大きな意味を持つことになるのである。

さらに、イギリスの国制は早い時代から社会の進展に敏感に順応した。法や制度の柔軟性は、軍務の金納化や他の封建的付帯義務の金納化にも見られる。この現象はマグナ・カルタにも顕著である。マグナ・カルタには、封建的付帯義務の規定が多いが、その時点で封建的負担はすでに貨幣負担化の傾向が見られた。また、特に、ヨーロッパの中世王制には租税制度の欠陥が一般にみられるが、イギリスではその欠陥は13世紀の混乱を経て解決され、近代的租税制度への基礎が確立された。「国家による経済的要求は「民」の合意を要する」という原則が確立され、また国王も自由保有地にはみだりに立ち入れないという形で私有財産の権利が保障された。その結果、国王は、「民」の合意なしには国政の基礎である十分な収入を確保できなくなったのである。そのため、王権の強大化が抑止されることになり、また、「民」の合意を得るには国王は「民」の意に合う国政の改革を行わねばならないため、制度の進歩・発達が保証され、制度の硬直化が阻止されたのである。立法における「民」の請願の重要性、

無能あるいは腐敗役人の弾劾など裁判や行政における中間層の役割などを保証したのは、議会の財政特権だった(中世末の議会制度の発達項参照)。この発展の過程では、多くの混乱、時には犠牲者が見られたが、何度か革命の事態は回避された。

イギリス史はヨーロッパ全体の中で理解されねばならない。多くの外国勢力がイギリスに流入し、また多数のイギリス人が海外で活躍した。この外との交流と摩擦から多くの影響を受け、イギリスは文化的経済的にも豊かとなった。近年この側面の研究に多くの関心が払われているが、本テキストでは、紙数の制限や現在のわが国の研究状況のために説明が十分ではない。

また、記述が12・13世紀に詳しくそれ以外の時代がやや簡略であるが、それは著者の研究関心と同時に本国の研究状況にもよるものである。ただ、本テキストは、現在、イギリス中世国制史に関して邦文で最も詳細なものである。昨今新聞紙上を賑わすこともある租税徴収と国民経済との関連、官僚の恣意的な自由裁量の抑制、法の近代化の問題などを考える上で、日本とイギリスを比較することは、興味深く思われるかもしれない。たしかに、このような方法は、研究の視角を決め問題を選択する時には有益であろう。しかし、このような「比較研究」は、現実には方法論的にきわめて難しいものであり、安易に行なうと単に読み物に終わる擬似的比較史に墮する可能性が高く、危険である。一にも二にも安易な比較を避け、対象とする国の史実をよく調べ、それをその時代の全状況の中に置いて考えることが重要である。歴史研究では、細かい問題を、あくまでもそれが置かれた広い状況の観点から考察するのが重要なのである。

【履修上の注意】

特に指定した科目の履修を終わっている必要はありませんが、まずイギリス中世史の基礎的な知識を身につけるためにエドモンド・キング『中世のイギリス』(慶應義塾大学出版会)を読んでください。そして、さらに西ヨーロッパ封建社会の全体像を理解するために、マルク・ブロック『封建社会』(岩波書店とみすず書房の二つの版がある)を読んでください。その際、西ヨーロッパで使われている「封建制度」の概念を学んでください。また、城戸毅『マグナ・カルタの世紀』(東京大学出版会)とデイヴィス『マグナ・カルタ』(ミュージアム図書)は、本テキストで扱う時代の本質的問題を理解するのに有益です。

【レポート作成上の注意点】

まずテキストを通読し、中世イングランド史の流れ、問題点をより大きな観点から理解してください。そして、個別のレポート課題をこの大きな流れの中に位置づけて考察してください。レポートを作成する際、それが課題の問いに対する直接の答えとなるように注意してください。また、それがテキストの抜き書き、丸写しにならないよう、自分自身の考えに基づき、自分自身の言葉で書いてください。これは、科目試験の際にも当てはまります。

【成績評価方法】

科目試験による。

【指定テキスト】

杉本智俊『図説 聖書考古学 旧約篇』河出書房新社、2008年

【講義要綱】

エジプト新王国は、それまでナイル地方を支配していた外国のセム系勢力（ヒクソス）を追放することで成立した。ヒクソスによるエジプト支配とは、どのような性格のものだったのか、それを撥ね退けるに至った経緯はどのようなものだったのか、まず学ぶべきだろう。その後第18王朝前半の王たちは、周辺諸国、特にパレスチナ地域に何度も遠征に行ったことが知られている。それは何のためだったのか、検討してほしい。その後、アマルナ時代になると、アマルナ書簡と言われる外交文書が発見されており、エジプトと他の国々との関係が詳しく知られている。そこに描かれた各国の状況とエジプトの関係はどのようなものだったのだろうか。アマルナ時代にエジプトは外国遠征をほとんど行っていないが、それはなぜなのかも考えてみたい。アマルナ時代に続くラムセス時代（第19王朝）になると、王たちは再び遠征を始める。それはどうしてなのか、治世の性格の変化、国際情勢の変化等から考察してほしい。

【関連科目】

「西洋史特殊Ⅰ—古代オリент史—」

【参考文献】

小川英雄『発掘された古代オリент』リトン、2011年

山花京子『古代エジプトの歴史 新王朝時代からプトレマイオス朝時代まで』慶應義塾大学出版会、2010年

【レポート作成上の注意点】

1. 参考文献もかならず活用すること。
2. 論理の流れと段落を意識して書くこと。
3. 議論、意見の根拠を明確に示すこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

【テキスト】

鈴木公雄『考古学入門』東京大学出版会、1988年

【講義要綱】

考古学は、人類活動により残された様々な物的証拠の分析を通じて、過去の人々の生活のあり方やその変化について考える学問です。この科目の使用テキストは、考古学の全体的な枠組みを、具体的な事例を紹介しながら、平易に解説したものです。このテキストを熟読することにより、基本的な考古学の研究法・調査方法、考古学という学問の成り立ちや、関連諸学問との関係、現代社会との関わりまでを体系的に理解することができます。

ただし、このテキストは考古学の学問としての体系を解説した「概論」ですので、具体的な事例紹介にも限界があります。参考文献に挙げた図書は、テキストの著者が、これまでの自身の研究をわかりやすくまとめたものです。考古学という学問を、豊富な具体的な事例を通して理解することができるだけでなく、テキストの理解にも役立つと考えますので、併せて読むことをお勧めします。

【テキストの読み方】

まずはテキストを何度も読むことが大切です。その際、項目ごと、節ごとに、どんな内容が書かれているのかを自分の文章でまとめ、そしてそれらの間にどのような関係性があるのかを考えてみるのも有効でしょう。最初は理解できないことや誤読があるかもしれませんが、参考文献に挙げた図書を含め様々な本を読んだり、博物館などで実際の考古資料などを見たりするうちに、次第に理解が深まると思います。

【履修上の注意】

特別な注意点はありますが、強いて言えば日ごろから考古学に対する関心を強くもつことが重要です。そうすることにより考古学をめぐる報道や、考古学関連のさまざまな図書に自然と目が向くようになり、積極的に博物館・資料館、遺跡や発掘現場の見学に出かけられるようになれば、よりいいでしょう。

【関連科目】

「オリエント考古学」「西洋史特殊Ⅰ」

【参考文献】

鈴木公雄『考古学とはどんな学問か』東京大学出版会、2005年

ほかにも、考古学をめぐる様々な文献に目を通すことをお勧めします。ただし、自分が初心者だと思える方は、考古学の方法論を扱ったものよりも、具体的な研究成果を盛り込んだ概説的な本や、写真や図版を多用したものを読み、まずは考古学に対する関心を高めるのがいいでしょう。

【レポート作成上の注意点】

テキストのある科目ですので、まずはテキストや参考書を何度も読み込んで、内容を理解することが大切です。テキストの理解が足りないと判断されるレポートは、まず合格点になりません。

また、課題で何を求めているのかをじっくり考え、盛り込むべき内容をしっかり整理してからレポートを書き始めるようにして欲しいと思います。

なお、レポートは、テキストや他の文献を読んだり、実物の資料を見て理解したことを、自分の文章で表現するものです。テキストの内容の要約ではありませんので注意して下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

地理学Ⅰ (L)

(L 103-0901)〔2単位〕

【講義要綱】

地理学Ⅰは、経済地理における急速な変動である「トランスナショナル化」を中心テーマとして取り上げた科目として構成されている。「トランスナショナル化」とは、一般的な「グローバル化」と重なる現象であるが、地球規模、地域経済統合、国、地域、都市、と様々な空間的レベルにおいて、様相を変えながら立ち現われている。この実態については、歴史的な時間軸と地理的な空間軸の両方からとらえることが重要である。

この科目で行う学習としては、毎日、必ず新聞を読み、内外の動きを自分の頭で考える習慣を身につけることを目指して行うことを期待している。

【参考文献】

教科書の各章の章末に掲げられているものを中心に選んでいくようにすること。

【レポート作成上の注意点】

理論的な点についての理解度を示す記述を期待するとともに、その内容を事例についても分析を行うように課題を設定している。このことに注意して作成していただきたい。

【成績評価方法】

科目試験による。

地理学Ⅱ (地誌学) (L)

(L 108-1001)〔2単位〕

【講義要綱】

地誌学の特徴は、唯単に、どの国やどの地域には何が存在するのかを調べ上げることだけではなく、それらの国々や地域において、これらの事物や事象が、時代とともに変化している有様や、他の国々や地域への影響や、他の国々や地域からの影響を調べ、何故そのような相互作用が起こるのかを考えることにある。

日常的にも、県民性や食文化ということについては話題になり、それぞれの人が、それぞ

れの考え方をもっているものであるが、今回のレポート作成にあたっては、非常に多数存在している関連する参考文献を利用し、これまで自分が抱いていたイメージを、客観的な事実やデータによって裏付けたり、新しい見方を獲得するように心懸けていただきたい。地誌学の面白さは、具体的事例を徹底的に調べ上げることから生まれる。

【参考文献】

郷土史、旅行ガイドブック、料理本など参考文献は限りなく存在するので、取捨選択が大切である。

【レポート作成上の注意点】

地誌学的知識と、いわゆる「常識」とは、どのように異なるのであろうか。単なる思いつきや固定観念（ステレオタイプなイメージ）だけで、この世界の中で生きて行くのは、つまらないことである。

地誌学の面白さは、様々な知見を、地域や場所という中で「総合化」することにある。レポートの作成にあたっては、複数の異なる視点からの知見を「総合化」するように心懸けていただきたい。

【成績評価方法】

科目試験による。

人文地理学

(L 095-0501) [2単位]

【講義要綱】

歴史学や地理学は、学問自体の内的要請によって進化発展するものであるばかりではなく、時代の要請によっても変化するものである。今日の世界の基本動向を考える上で、「グローバル化現象」の理解は避けて通ることは不可能である。

『人文地理学』は、このような背景と時代要請の中で書き下ろされたものであるので、教科書全体を通して精読し、「グローバル化現象」の意味をしっかりと把握した上で取り組んでいただきたい。

【参考文献】

教科書の各章の章末に掲げられているものを中心に選んでいくようにすること。

【レポート作成上の注意点】

教科書の理解度を示す記述を期待するとともに、その内容を事例とともに説明すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

古代からの国語の変遷を通して、主に日本の古典文学の読解・鑑賞の質を高めること、および「ことば」に含まれる語義の多層性と汎用性をこまかに観察することにより、古典に見る日本人の心意の諸相を感知すると同時に、自身の言語の拠って立つところを洞察することを目的とする。

【参考文献】

〔方言に関して〕『講座方言学』『方言学概説』

〔方言辞典〕『標準語引き 日本方言辞典』『日本方言大辞典』『現代日本語方言大辞典』

〔言語地図〕『日本言語地図』『方言文法全国地図』

〔古語を多く収載する辞典〕『日本国語大辞典 第2版』『角川古語大辞典』『時代別国語大辞典 上代編』『同室町時代編』『近世上方語辞典』『江戸語大辞典』『江戸時代語辞典』

【レポート作成上の注意点】

引用は必ず「 」でくくり、出典を明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

国語学が対象とするものは幅が広く奥行きも深い。国語の音韻・語彙・文法はもちろん、その背後にある歴史、民俗、文化、思想等さまざまなものを含むが、国語辞典・漢和辞典はそれらを包括し、規範となる説明を行なっているはずのものである。この各論では、現在・過去のいろいろな辞書・事典類を紹介した。但し冊子体のもののみを対象とし、電子辞書や玉石混淆のネット関係のものは除外してある。電子辞書の利便性はある程度認めるものの、紙媒体のものを電子化しただけのものや進化途上のものが多いからである。また、ネット上に氾濫している情報には、無責任で怪しげなものが多く、信頼に欠けるからである。

【テキストの読み方】

本テキストには数多くの注がつき、しかも詳細なものが多い。したがって注を読むことによって得られる知識その他は大きいと考える。また、第3章において、江戸時代の辞書・事典を取り上げているが、次々と出版された節用集や「増續大廣益會玉篇大全」、平安時代に成立し江戸時代によく参看された「倭(和)名類聚鈔(抄)」など、珍しいものではなく、普通に行なわれたものを紹介している。そして巻末の参考文献解題はただ単なる書名の羅列

ではなく、参照する際に役立つようにその章立て・内容等を記し、ときに批判も加えてある。書名や編集者名を覚えるだけでなく、注や参考文献を活用し、実際に当該文献を読んで行ってほしい。

【レポート作成上の注意点】

辞書・事典は、自分で読み、自分で引くもので、他人に引いてもらうものではない。したがって、参考文献やネット検索で得た知識をそのまま写すことは厳禁。利用してみての実体験に基づいた報告を期待する。また、この程度の分量のレポートで、序論とか本論、結論などとするのは滑稽に類する。終わりのほうによく「後注」という標目を立てておられるケースを目にするが、これも「注」とするだけでよい。国語学であるので、誤字・脱字に注意し、上手・下手ではなく丁寧な文字表記をこころがけて頂きたい。

【成績評価方法】

科目試験による。

国文学

(L 038-7701、L 7701)〔4単位〕

【講義要綱】

日本の古来から伝わってきた古典文学のすぐれた価値を知ること。古代の歌や物語、またそのなかに綴られる美しいことばや奥行きのあることばに注意を向ける。そのようにしながら、わたしたち日本人の古くから持ち伝えてきた伝統精神の豊かさや、生活習慣の多様さを知り、生きてゆくことのさまざまな問題のはじまりと経過を尋ねてゆく。

【参考文献】

折口信夫全集第一巻国文学篇 および 同四巻（新全集）「日本文学の発生序説」中央公論社

池田彌三郎『万葉びとの一生』講談社現代新書、1978年

池田彌三郎『日本文学の素材』日本放送出版協会、1988年

藤原茂樹編著『催馬楽研究』笠間書院、2011年

藤原茂樹・坂本信幸『万葉から万葉へ』NHK 出版、2008年

藤原茂樹『万葉集の歩き方』NHK 出版、2013年

【レポート作成上の注意点】

レポート作成に際して、次の諸点に注意すること。

- 参考とした研究書名・論文名・著者名・刊行年月を明記する。（提示した参考文献以外のものでも可）
- 古事記・万葉集・日本書紀・続日本紀・源氏物語・歌謡などの古典文学のテキストは、新編日本古典文学全集（小学館）、日本古典文学大系・新日本古典文学大系（岩波書店）の

シリーズを用いるのが好ましい。

- レポートに歌、記事等を引用する際には、参考書からの孫引きを避け、これらテキストから直接に自身で引用する。
- 参考文献にあげた書およびテキスト『国文学』序論や第二部日本文学の戸籍「万葉集の解題」などを参照すること。また藤原近著（NHK出版）は、万葉の普遍的価値について解説しているので二〇一四年度課題と関連性が深い。課題の意図を知る参考になる。
- 万葉の歌は、読み下し文で掲載（必要な場合のみ原文表記を採用）する。

【成績評価方法】

科目試験による。

国文学史

(L 008-5902、L 51)〔3単位〕

【講義要綱】

日本文学のながれを理解する科目。テキストは、現在の見地ではやや古風だが、基本をおだやかに網羅している。したがって、理解の補足のためには、参考文献としてしめたものが必要にもなる。しかし、それよりも第一に、テキストに引用されている様々の古典作品（とくに一節をあてられている作品・作者）の具体にふれることが大事だ（『新 日本古典文学大系』（岩波書店）、『新編日本古典文学全集』（小学館）、『新潮日本古典集成』（新潮社）等の古典校注・訳注叢書をもちいればよい）。むろん、たとえば『源氏物語』や『平家物語』の全篇、西行や西鶴の全作品等をよみとおすすめは無理だが、部分もしくは数篇を実際によんで、それと文学史的記述とをもう一度自分で引照する必要がある。科目試験・レポートのために役だつだけでなく、自分たちの文化の理解にもつながる。

【参考文献】

- 『日本文学全史』学燈社
- 『日本文学新史』至文堂
- 小西甚一『日本文藝史』講談社（絶版）
- 加藤周一『日本文学史序説』筑摩書房
- 『岩波講座・日本文学史』岩波書店
- 『藝文研究「文献案内」』の「国文学」、慶應義塾大学藝文学会

【レポート作成上の注意点】

設問からもわかるはずだが、テキストの要約や他の文学史概説のぬきとりではレポートとならぬことに留意すべし。具体的に、ということは自分で作品をよんだ上で、実感に即しつつ、しかも論理をたててまとめる必要がある。

テキストとして読んだもの、参考とした研究文献を、著者・書名・刊行元・刊年の形で明

示すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

近代日本文学

(L 006-5204)〔3単位〕

【講義要綱】

明治以降の近代化は社会の制度や構造の大きな変化をもたらしたが、それは「家」制度にも及んでいる。このことは、近代的な個人の内面に焦点をあてる近代文学にも深い影響を及ぼしており、樋口一葉「十三夜」、森鷗外「半日」、島崎藤村「家」、田山花袋「生」、夏目漱石「行人」、志賀直哉「和解」など、さまざまな作品に「家」をめぐる問題が主題化されている。

この意味で、近代文学の中に描かれる「家」のありようを分析することは、近代日本文学および同時代の社会や文化が根底にかかえていた問題を本質的な領域でとらえ直すことにつながると考えられる。

【テキストの読み方】

テキストの対象範囲は限定的であるため、参考文献などによって視野を広げることが要求される。

【履修上の注意】

近代文学史の基本的な知識をもっていることが望ましい。

【参考文献】

福尾猛市郎『日本家族制度史概説』吉川弘文館、1972年

牟田和恵『戦略としての家族 近代日本の国民国家形成と女性』新曜社、1996年

関礼子『語る女たちの時代——葉と明治女性表現』新曜社、1997年

東洋大学井上円了記念学術センター編『文学における家族の問題』すずさわ書店、1999年

【レポート作成上の注意点】

抽象的な議論ではなく、具体的な作品を分析することが求められる一方で、同時代の社会制度、家制度との関わりなど広い視野から論じることが要求される。これら二つの視点からとらえ返すことで、個人と「家」や「家族」との関わりをめぐる問題の本質を掘り下げることが可能になるだろう。同時に、先行文献に頼るのではなく、あくまで自分自身の観点から分析・論述することが求められる。

【成績評価方法】

科目試験による。

国文学古典研究Ⅰ
— 御伽草子の世界 —

(L 088-0401) [1 単位]

【講義要綱】

御伽草子は、室町時代から江戸時代前期にかけて制作された短編の物語群の総称である。現在、約四百編の作品が存在している。この御伽草子の各作品について、テーマ毎に分類し、その特徴を学習する。

【参考文献】

日本古典文学大系・新日本古典文学大系（岩波書店）、日本古典文学全集・新編日本古典文学全集（小学館）、新潮日本古典集成（新潮社）のうち、御伽草子・室町物語関係書。

【成績評価方法】

科目試験による。

国文学古典研究Ⅱ — 1
— 近世前期小説の展開 —

(L 013-6501、L 52 b、L 6507 a) [1 単位]

【講義要綱】

日本の近代文芸にも大きな影響を与えた江戸時代の文芸のうち、仮名草子、西鶴を中心とする浮世草子、それに談義本の流れを辿るもので、それらのジャンルの様々な作品を読む際の基礎知識を得る。

【参考文献】

日本古典文学大系・新日本古典文学大系（岩波書店）、日本古典文学全集・新編日本古典文学全集（小学館）、新潮日本古典集成（新潮社）のうち、仮名草子、浮世草子関係書。

【成績評価方法】

科目試験による。

国文学古典研究Ⅱ — 2
— 近世後期小説の展開 —

(L 016-6901、L 6907 b) [1 単位]

【講義要綱】

洒落本・人情本・滑稽本それに読本といった近世後期小説の展開を学び、黄表紙や合巻等の草双紙を含め、様々なジャンルの色々な作品を実際に読んで行く。

【参考文献】

日本古典文学大系・新日本古典文学大系（岩波書店）、日本古典文学全集・新編日本古典文学全集（小学館）、新潮日本古典集成（新潮社）のうち、江戸後期小説関係書。

【成績評価方法】

科目試験による。

国文学古典研究Ⅲ —古代和歌概説—

（L 041-7702、L 7733）〔1単位〕

【講義要綱】

和歌は長い年代にわたって、日本文学の最も表立ったものとして、上下に重んぜられてきた。日本文学理解のためには、どのような領域を目標として置くにせよ、和歌史についての知識を基本として欠くわけにゆかない。本テキストは和歌の発生からそれが文学としての地歩を占めるに至る、和歌史の最初の部分を概説したものであるが、特に文学が文学以前の目的から文学としての自覚を生じてくる過程に学習の重点を置いてほしい。

【参考文献】

『折口信夫全集』（旧版1・2・9巻、新版1・2・6巻）中央公論新社

『池田彌三郎著作集』1・4・5・6巻 角川書店（絶版※古書店に今なお多く流通している）

西村亨『新考 王朝恋詞の研究』桜楓社、1981年

西村亨『伏流する古代』大修館書店、2008年

西村亨『歌と民俗学』岩崎美術社、1966年

藤原茂樹・坂本信幸『万葉から万葉へ』NHK 出版、2008年

藤原茂樹『万葉集の歩き方』NHK 出版、2013年

その他独自に調査すること。

【レポート作成上の注意点】

レポートは、テキストを精読するのは勿論であるが、テキストの学習だけにとどまらず、参考とすべき書物・論文等をよく探し、なるべく数多く読んで、その成果を示すこと。本科目は特に折口信夫の文学発生説を基盤としているため、参考文献として挙げられたものなど、十分に学習することが望まれる。

なお、レポートは参考文献の文章を丸写しにするのではなく、自己のことは文章に移して書くように留意してほしい。参考論文は、論述上必要な場合は、「」に引用をする。（著者名・書名・論文名・掲載書名もしくは雑誌名・巻数・刊行年など明記のこと。）

【成績評価方法】

科目試験による。

国文学古典研究Ⅳ
—平安和歌研究—

(L 074-9401、L 9409)〔1単位〕

【講義要綱】

本科目は、古典文学の中でも中心的位置を占める和歌という文学がどのようなものであるかを実際に作品に接して理解を深め、その基本的な知識を身につけるために設けられています。

【テキストの読み方】

八代集の各集の特質を理解して下さい。

【履修上の注意】

参考文献を写すだけでは、評価されません。それをもとに自身の考えをめぐらすよう努めて下さい。

【参考文献】

八代集の注釈書としては、和泉古典叢書（和泉書院）、新日本古典文学大系（岩波書店）があります。

【レポート作成上の注意点】

平安時代の歌人が、どういう素材の、どういう色に注目しているかといった点に留意しながら、作品にあたって下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

国語国文学古典研究Ⅴ
—随筆文学—

(L 029-7503)〔1単位〕

【講義要綱】

日本の古典文学の中で三大随筆と称される『枕草子』（清少納言）、『方丈記』（鴨長明）、『徒然草』（卜部兼好＝吉田兼好、兼好法師）は、それぞれ後代の日本文学に大きな影響を与えています。このテキストは、そのうち『枕草子』の類聚的章段（物は付けの段）を中心としたパロディや注釈書を紹介しているもので、同書や『方丈記』『徒然草』の索引・享受史関係文献、それに古典随筆に関する索引類の略目録も付載してあります。それらを活用し原典

を読み、日本文学の幅の広さ、奥行きの高さ面白さを実感し視野を広げていってください。

【テキストの読み方】

引用文献中に難しい語句が出てきますが、各種古語辞典や『広辞苑』（岩波書店）『大辞林』（三省堂）『日本国語大辞典』『精選版日本国語大辞典』（小学館）などの中型・大型の国語辞典を引くなどして読む努力をしてください。一方でまた、細部にこだわらず全体の流れをつかみましょう。

【参考文献】

本テキストの理解を深めるためには、パロディーや注釈書のもとになった原作そのものを読んでいることが大切です。

三大随筆については、文庫本を含めて数多くのテキストが出ていますが、原文・注・現代語訳が揃っている『新編 日本古典文学全集』（小学館）や角川文庫・講談社学術文庫所収のものが便利かもしれません。『方丈記』は、市古貞次校注・岩波文庫の『新訂 方丈記』と2010年11月に改版が出た築瀬一雄訳注・角川文庫本がおすすめです。『犬枕』は『日本古典文学大系』、『尤之双紙』は『新 日本古典文学大系』 仮名草子集（いずれも岩波書店）、『けしずみ』は『新編 日本古典文学全集』 仮名草子集に収録されています。その他犬枕系の作品は様々な叢書に影印や翻刻が入っています。詳しくはテキストを参照してください。

【レポート作成上の注意】

参考文献を写すのではなく、自分なりに作品を読み、自分のことばでレポートしてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

書道

(L 040-7701、L 9112)〔2単位〕

【講義要綱】

書道の歴史は殷代の甲骨文に始まり周代の金文、秦の小篆、漢代の隸書、三国から六朝時代にかけては草書・行書・楷書が成立し発展していった。そして唐代には楷書が書法上の完成をみた。中国の書の歴史はこの様に流行した時代の書体を念頭に置いて理解されたい。

日本の書は中国や朝鮮との交流の中で育まれてきた。しかし日本の政治文化が独立したことで書も平安時代中期以降は和様の書が盛んとなった。この様な時代の流れをふまえて名跡をみていくことが重要である。

この科目は書道史とともに実技の課題が課せられているので、提出にあたっては十分な練習をすること。

【参考文献】

書道史の参考書

『中国書道文化辞典』西林昭一著 柳原出版

『日本書道辞典』小松茂美編 二玄社

『中国書道史事典』普及版 比田井南谷著 天来書院

『書林』書の精神と書学 星野聖山著 匠出版

『中国書道史年表』二玄社

『日本書道史年表』二玄社

実技用手本

『中国法書選』全60冊 二玄社

『日本名筆選』全40冊 二玄社

※分冊可、必要な手本を1冊単位で入手できる。

【レポート作成上の注意点】

作品提出の際、漢字作品は半紙に4文字を2行で、かな作品は口絵写真のとおり配置構成し、いずれも半紙の左側に名前も毛筆にて書くこと。十分な練習を積み提出して下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

中国文学史

(L 057-8502)〔2単位〕

【講義要綱】

この科目は悠久の歴史と多様なジャンルを有する中国文学の全体像を通史的に学び、その歴史的展開の諸相と特質を理解することを目的とする。

当科目では、文学を孤立的に学ぶのではなく、それが歴史・政治・社会といかに関わり合いながら成立しているかを多角的に考察する。

【テキストの読み方】

学習者はまずテキストを精読することによって、中国文学史について概括的な知識を得ること。そして、その上で各自の関心に従って問題を設定し、その解明のために作品を広く読んで欲しい。

【履修上の注意】

「漢文学Ⅰ～Ⅲ」を履修する場合は、その前に当科目を履修することが望ましい。

【関連科目】

「漢文学Ⅰ」「漢文学Ⅱ」「漢文学Ⅲ」

【参考文献】

前野直彬『中国文学史』東京大学出版会、1975年
『中国の古典名著・総解説』自由国民社、1990年
興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』世界思想社、1991年
八木章好『中国古典文学二十講 概説と作品選読』白帝社、2003年
湯浅邦弘『概説中国思想史』ミネルヴァ書房、2010年

【レポート作成上の注意点】

参考文献を明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

漢文学Ⅰ

(L 075-9601)〔2単位〕

【講義要綱】

当科目は中国文学の概説および作品選読である。「漢文学」という名称の通り、対象は中国の古典文学に限定し、近現代のものは含まない。中国で伝統的に「文学」と言う場合、言語によって表現される文芸・学問全般を指す。当科目では、その中の詩文・思想・歴史の三つの領域を扱う。

【テキストの読み方】

まず、テキスト第一部の「漢文学概説」を熟読すること。概説は各ジャンルの最も重要と思われる項目のみを簡略に紹介しているので、巻末の参考文献などによって不足の点を補ってほしい。

中国古典文学の全体的な流れが把握できた段階で、次の第二部「漢文学選読」に進むこと。テキストは原文に訓読と注釈を付しただけであるので、全文の解釈および作品の背景については各自で辞書・参考書を使って詳しく調べてほしい。

【履修上の注意】

「中国文学史」を履修済みであることが望ましい。

【関連科目】

「中国文学史」「漢文学Ⅱ」「漢文学Ⅲ」

【参考文献】

塩谷温『中国文学概論』講談社学術文庫、1983年
黎波『中国文学館』大修館書店、1984年
荘司格一ほか『中国文学入門』白帝社、1987年

九州大学中国文学会編『わかりやすくおもしろい中国文学講義』中国書店、2002年
松原朗ほか『教養のための中国古典文学史』研文出版、2009年

【レポート作成上の注意点】

参考文献を必ず明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

漢文学Ⅱ—論語—

(L 011-6201、L 60 b)〔1単位〕

【講義要綱】

『論語』は孔子の言行録であり、儒教の最も基本的な経典である。徳治主義、尚古主義、身分主義といった特徴を持つとされるその思想は、中国のみならず東アジア諸国に大きな影響を与えた。まず『論語』の原典を通読し、数多くある参考書を参照しつつ、孔子と儒教の特色について考察する。

【参考文献】

吉田賢抗『論語』新釈漢文大系1 明治書院、1960年
平岡武夫『論語』全釈漢文大系1 集英社、1980年
吉川幸次郎『論語（上・下）』朝日出版社（朝日選書）、1996年
金谷治『論語』岩波文庫、1999年
加地伸行『論語』講談社学術文庫、2004年
井波律子『論語入門』岩波新書、2012年
和辻哲郎『孔子』岩波文庫、1988年
金谷治『孔子』講談社学術文庫、1990年
白川静『孔子伝』中公文庫、1991年
江連隆『論語と孔子の事典』大修館書店、1996年

【レポート作成上の注意点】

『論語』や孔子に関する参考書は数多く、それぞれの解釈には大きな違いがある場合も多いので、必ず複数进行参照して考察すること。また引用文は自分の文章と区別できるように記し、出典と引用箇所を明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

漢文に親しみ、中国古代の思想史を理解するために、『孟子』を題材にとり学習する。訓読（書き下し文）を通して解釈の方法を身につけると同時に、儒家としての孟子の思想の特色についての理解を深める。

【参考文献】

島森哲男・浅野裕一『孟子・墨子』鑑賞中国の古典③ 角川書店
内野熊一郎『孟子』新釈漢文大系4 明治書院
宇野精一『孟子』全釈漢文大系2 集英社
大島晃『孟子』中国の古典4 学習研究社
貝塚茂樹『孟子』講談社学術文庫
小林勝人『孟子（上・下）』岩波文庫

【レポート作成上の注意点】

指定の字数内で、はっきりと読みやすく書くよう心がけること。引用文は自分の文章と区別できるように記し、出典と引用箇所を明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

現代英語の特徴を多面的に研究する。英語が現代の世界で置かれている状況は明らかに他の個別言語と異なっている。また、言語だけを見ても、他のインド・ヨーロッパ語族にある言語とは異なった特徴がある。これらの視点をふまえて「英語らしい」英語の使用を考える。

【テキストの読み方】

熟読すること。

【関連科目】

「英語学概論」「新・英語音声学」

【参考文献】

唐須教光編『開放系言語学への招待—文化・認知・コミュニケーション』慶應義塾大学出版会、2008年

井上逸兵『伝わるしくみと異文化間コミュニケーション』南雲堂、1999年

井上逸兵『ことばの生態系』慶應義塾大学教養研究センター、2005年

【レポート作成上の注意点】

自分のことばで書くこと（丸写しはダメ）。

ワープロによる作成、提出が望ましい。

【成績評価方法】

科目試験による。

英語学概論

(L 072-9201、L 9254)〔3単位〕

【講義要綱】

英語の言語上の特徴や英語と社会・文化・コミュニケーションとの関わりを見極めること。また、英語、ならびに言語を分析するために発展してきた研究の流れを理解し、それをふまえて英語の使用を考察すること。

【テキストの読み方】

熟読すること。

【関連科目】

「現代英語学」「新・英語音声学」「英語史」

【参考文献】

辻幸夫編『新編認知言語学キーワード事典』研究社、2013年

小池生夫編『応用言語学事典』研究社、2003年

松浪有他編『大修館英語学事典』大修館、1983年

大塚・中島監修・荒木他編『新英語学辞典』研究社、1982年

澤田・高見編『ことばの意味と使用』鳳書房、2010年

井上逸兵『伝わるしくみと異文化間コミュニケーション』南雲堂、1999年

【レポート作成上の注意点】

自分のことばで書くこと（丸写しはダメ）。

ワープロによる作成、提出が望ましい。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

一般音声学的理解を土台として、音声英語の調音的特徴、音響学的特徴を理解すること。また英語の韻律についても理解を深めること。

【テキストの読み方】

熟読すること。

【履修上の注意】

文献、レポート等による学習だが、実際に自分で発音しながら学習してほしい。

【関連科目】

「英語学概論」「現代英語学」

【参考文献】

今井邦彦『ファンダメンタル音声学』ひつじ書房、2007年
佐藤寧・佐藤努『現代の英語音声学』金星堂、1996年
牧野武彦『日本人のための英語音声学レッスン』大修館書店、2005年

【レポート作成上の注意点】

- ・適宜、参考文献を参照すること（テキストレベルの詳述では不十分）。
- ・自分の言葉で書くこと（丸写しはダメ）。自分の母語（ほとんどの方にとっては日本語）の音声学的な特徴との対比を加えてもよい。
- ・ワープロによる作成が望ましい。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

英語が、今日、世界語になっていることは誰も否定できません。日本の3分の2ほどの大きさの国の言語がです。この英語がどのような発達をしたか、遠く昔のインド・ヨーロッパ語の時代にさかのぼり、そこから逆に今日にいたる経緯をたどってみると、驚くべき事実が明らかになってきます。音韻、語彙、語形態、統語法、方言、これらの変遷を観察してください。何気なく使っている言葉の興味ある意外な性格が見えてきます。

【テキストの読み方】

教科書の練習問題をきちんとこなしましょう。解答のヒントはすべて教科書の記述の中に

あります。

【履修上の注意】

高等学校まで学んだ現代英語の文法の知識を、きちんと整理してください。なぜそのような文法になったか、を知ることも学習目的の一つですから。また、もし余裕があれば、英文学史の概説書を読んでおいてください。

【参考文献】

寺澤芳雄編『英語語源辞典』研究社、1997年

【レポート作成上の注意点】

ワープロでレポートを作成の場合、ワープロで印字できない特殊な文字は手書きで記してください。とくに発音記号などは、ほかの文字で代用しないようお願いします。

【成績評価方法】

科目試験による。

ACADEMIC WRITING I —英語論文作成法—

(L 113-1201)〔2単位〕

【講義要綱】

「ACADEMIC WRITING I」は、英語論文執筆に必要な知識とスキルを習得することを目的としています。単なる「英作文」とは異なり、アカデミック・ライティングには「英語で書く」ということ、そして「学術的な論文を書く」という二つの基盤があります。つまり、文法・構文的に正確な文を作成するだけでなく、アカデミックな研究の性質や作法を理解し、論理的議論を構築し、それに応じた論文構成を行う能力が必要となります。本科目では、テキストを通してこれらを学び、レポート課題で実践します。

【テキストの読み方】

テキストのPart 1は英語論文の特色や構造について説明しています。Part 2は英語論文を実際に執筆し完成させるまでのプロセスを説明しています。

【履修上の注意】

本科目は、高等学校修了程度の英語力を持ち、文法的に正確な表現を用いて、ある程度の長さの英作文ができる学習者を対象としています。よって、英文法の復習が必要な学生は、市販の書籍や、参考文献に挙げた教材でよく学習してから、履修して下さい。

【参考文献】

アカデミック・スキルズ解説書

・佐藤望編『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門（第2版）』慶應義

塾大学出版会、2012年（論文作成だけでなく、大学での学び全般に役に立つスキルや知識習得を目指した入門書。）

アカデミック・ライティング学習書

- ・アンドルー・アーマー、河内恵子、松田隆美、ウィリアム・スネル『アカデミック・ライティング応用編—文学・文化研究の英語論文作成法』慶應義塾大学出版会、1999年
- ・上村妙子、大井恭子『英語論文・レポートの書き方』研究社、2004年
- ・佐渡島沙織・吉野亜矢子『これから研究を書くひとのためのガイドブック—ライティングの挑戦15週間』ひつじ書房、2008年（英語ライティングに特化したものではないが、大学で研究を行い、その研究成果を効果的かつ正確に著すのに必要な作法や手順が丁寧に説明されている。）
- ・崎村耕二『英語論文によく使う表現』創元社、1991年
- ・ポール・ロシター、東京大学教養学部英語部会編『First Moves: An Introduction to Academic Writing in English』東京大学出版会、2004年（8章構成。各章で短い学術的テキストを土台に、アカデミック・ライティングの諸要素（英語表現の詳細も含む）を学ぶことができる構成になっている。練習問題と解答例あり。）
- ・Robyn Najar and Lesley Riley (2004). *Developing Academic Writing Skills*. Tokyo: Macmillan Language House. (15ユニットから成る大学生向け入門書。英語で書かれているが、文字が大きく、図表も多いので読みやすい。)
- ・Alice Oshima and Ann Hogue (2006). *Introduction to Academic Writing* (3rd edn). New York: Longman. (アカデミック・ライティング執筆に不可欠な知識、作法や手順が網羅されている。)
- ・Dorothy E. Zemach and Lisa A. Rumisek (2005). *Academic Writing: From Paragraph to Essay*. Oxford: Macmillan.

MLA スタイルの解説書

- ・Modern Language Association of America (2009). *MLA Handbook for Writers of Research Papers* (7th edn). New York: Modern Language Association of America.
- ・『MLA 英語論文の手引 第6版』北星堂書店、2004年（*MLA Handbook* 第6版の翻訳版。上記の第7版と異なる事項があるので注意すること。）
- ・Charles Lipson (2011). *Cite Right: A Quick Guide to Citation Styles — MLA, APA, Chicago, the Sciences, Professions, and More* (2nd edn). Chicago: University of Chicago Press. (様々な論文スタイルのガイド。)
- ・‘MLA Formatting and Style Guide’. <http://owl.english.purdue.edu/owl/resource/747/01/>（下記サイトのMLAスタイル解説のページ。）

アカデミック・ライティング学習のためのウェブサイト

- ・<http://owl.english.purdue.edu/>（アメリカPurdue大学で運営されているサイト。ライティングにおける重要事項を具体的、丁寧に解説。専攻分野ごとの説明もある。英語学習者むけ情報、練習問題も豊富。）

- ・ <http://www.uefap.com/> ('Using English for Academic Purposes: A Guide for Students in Higher Education' . イギリスの英語教育コンサルタントが運営するサイト。分野ごとに練習問題が豊富に掲載されている。オンラインで取り組むことができ、ほとんどの問題に解答がついているので、自習に最適。)

【レポート作成上の注意点】

教科書のチェックリストは、レポート課題に多く見られる問題点と本科目の学習事項をもとに作成されています。各項目と照合しながら、最低二回は論文を読み直してください。

特に、以下の問題のあるレポートが多いので注意してください。

- ・ 英語の誤り（主語と動詞の一致、冠詞、品詞、構文、時制等において）が目立つ
- ・ 議論の構成（論文の thesis が曖昧、論理的な一貫性不足、客観的な立証不足）
- ・ 論文の構成（パラグラフの構造、イントロダクションの役割と構造）
- ・ 書式、引用方法、文献リストの不備

【成績評価方法】

科目試験による。

ACADEMIC WRITING II

— 英米文学・文化研究における英語論文作成法 —

(L 080-9901) [4 単位]

【講義要綱】

The aim of Academic Writing II is to research and write an academic essay on a literary theme in English, conforming to the guidelines described in the textbook. The essay will be evaluated according to the proficiency of English, the content (i.e. argument), and technical details such as use of quotation, punctuation, etc.

【履修上の注意】

This essay must conform to the style(s) and format explained in the textbook and should be typed using a computer or word processor. It is expected that the works and critical studies referred to are for the most part in English, although the use of Japanese books, journals, etc. is not discouraged.

【参考文献】

テキストの当該欄を参照のこと。

【レポート作成上の注意点】

なるべくワープロで論文作成のこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

現代英文学

(L 043-7702、L 7724)〔2単位〕

【講義要綱】

小説作品をじっくりと丹念に読み、課題について考えることが必要。

書き出す前にレポートの構成を練ること。利用する引用文についても検討すること。

作品のあらすじ紹介にならないように注意すること。

【履修上の注意】

課題として選択した作品の詳しい情報をレポートの最初に記すこと。(出版年、出版社、出版地、翻訳者名)

【参考文献】

イギリスの現代史、小説史、文化史など。

【レポート作成上の注意点】

引用文の情報は明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

英文学特殊

(L 071-9201、L 9239)〔2単位〕

【講義要綱】

近現代のイギリス文学とその歴史を、「言論の自由」と「信仰への態度」という二つの側面から考察する科目である。レポート課題自体は、両者のいずれか一つを選択して執筆する形式となっているが、単位の取得のためには両方について深い知識と見識を持つことが必要になる。

【テキストの読み方】

まずは、テキストを精読し、第1部で述べられている海保師の見解、第2部で述べられている上村師の作品論、それぞれについて正確に理解することが必要である。その上で、レポート課題などに応じて、参考文献を自分で探し、増やししながら、自分独自の意見を持つことが必要。

【履修上の注意】

テキストもさることながら、小説などの原典をじっくりと読むことが何より大事である。

しかし、レポートの執筆においては、単なるテキストの要約や作品の紹介ではなく、研究対象についての自分独自の視点を強く打ち出すことが求められる。その意味で、参考文献を貪欲に読破することが大事。

【履修上の注意】

特になし。

【関連科目】

特になし。

【参考文献】

文学部英米文学専攻のホームページにある『文献案内』または『藝文研究 別冊』の「文献案内」などを参考にしながら、妥当性が高いと思われる参考文献を一步一步、自分の力で探してみる。学習はそこから始まるのだから。

【レポート作成上の注意点】

テキストなどの単なる要約や模倣に終始している低いレベルのレポートには、当然ながら高い評価は与えられない。剽窃に関しては厳しい態度で臨むので、注意すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

中世英文学史

(L 035-7601、L 7622)〔2単位〕

【講義要綱】

中世の英文学は約1000年にも及ぶ長い中世の時代に書かれた英語文献のほとんどを研究範囲とします。大きく分ければ、ノルマン征服以前の古英語と以後の中英語で書き残された文学作品に区別できます。本講義はそのほとんどを扱うので、学生諸君は教科書を熟読して、大きな流れを理解して下さい。テキストに書かれているように、一見したところ「暗い古英語文学と明るい中英語文学」のように思えるかもしれませんが、けれど実際にひとつひとつの作品を読むとき、古英語と中英語の区別なく、中世の英語話者のダイナミックな世界観、あるいは日常の細やかな感情が丁寧に描かれていることがわかるでしょう。

日本ではあまり紹介されることのなかった分野ですが、実は非常に面白く、広く深い世界を背景に持っていることを、課題に取り組みながら理解して戴きたいと思います。

【テキストの読み方】

テキストは、中世英文学の大きな流れを概説しています。また、現代英語とは大きく異なるように見える古英語文学作品に使われた技法や、古英語以外のゲルマン文学の伝統がどのように古英語文学と関連するかを述べています。読者は、大きく流れを捉えると同時に、専

門用語の意味をしっかりと理解し、参考文献を手にとって、テキストに書かれている内容を踏まえながら、実際に作品を（翻訳でもよいから）読んでみて下さい。文学テキストが様々な視点からも理解できることに気がついて下さることが望ましいです。

【履修上の注意】

イギリスの歴史、文化に興味を持っていることが第一条件です。英国中世史および英語史について概説を読んでおいて下さい。また教科書の他に参考書を手にとる必要もあります。

【関連科目】

「英語史」、「歴史（西洋史）」、「近世英文学史」

【参考文献】

- 安東伸介他編『厨川文夫著作集』上・下巻、金星堂、1981年（『ベーオウルフ』翻訳所収）
『ベーオウルフ 中世イギリス英雄叙事詩』忍足欣四郎訳 岩波文庫、1990年
T. A. シッピー著『作品研究 ベーオウルフ』 荻部恒徳訳 東京：英宝社、1990年
古英語叙事詩『ベーオウルフ』対訳版 荻部恒徳、小山良一共訳 研究社、2007年
荻部恒徳著『「ベーオウルフ」の物語世界：王・英雄・怪物の関係論』松柏社、2006年
唐澤一友著『アングロサクソン文学史：韻文編』東京：東信堂、2004年
桜井俊彰著『英国中世ブングク入門』勉誠出版、1999年
『英国中世ロマンス集』大槻博訳 東京：旺史社、1988年
チャーサー作、西脇順三郎訳『カンタベリー物語』上・下巻、ちくま文庫、1987年
チャーサー著『完訳カンタベリー物語』梶井迪夫訳、上・中・下巻、岩波文庫、1995年
斉藤勇著『カンタベリー物語—中世人の滑稽・卑俗・悔悛』東京：中央公論社、1984年
斉藤勇著『チャーサー：曖昧・悪戯・敬虔』東京：南雲堂、2007年
『アーサー王円卓の騎士ガウェインの冒険』[『ガウェイン卿と緑の騎士』翻訳] 境田健訳、
東京：秀文インターナショナル、1999年
サー・トマス・マロリー著、厨川文夫訳『アーサーの死』ちくま文庫、1986年
サー・トマス・マロリー著、Eugene Vinaver 編、中島邦男他訳『完訳アーサー王物語』
東京：青山社、1995年
高宮利行著『アーサー王伝説万華鏡』東京：中央公論新社、1995年
高宮利行著『アーサー王物語の魅力—ケルトから漱石へ』東京：秀文インターナショナル、
1999年
高宮利行、松田隆美共編『中世イギリス文学入門』東京：雄松堂、2008年
羽染竹一編訳『古英詩大観：頭韻詩の手法による』東京：原書房、1985年
羽染竹一編訳『続・古英詩大観：頭韻詩の手法による』東京：原書房、1992年
成瀬俊一編『もっと知りたい世界の名作9 指輪物語』東京：ミネルヴァ書房、2007年
J. R. R. トールキン著『ホビットの冒険』上・下巻 岩波少年文庫 東京：岩波書店、
2000年

その他、インターネット上では、中世の英文学作品の現代英語訳を読むことができます。

【レポート作成上の注意点】

本科目のレポートは、論文形式のレポートが求められています。大学でのレポートの書き方をきちんと学んだ上でレポート執筆に臨んで下さい。

教科書および参考文献に書いてあることを、註もつけずにそのまま引用することは大きな減点とします。参考文献、資料の書誌情報、註はきちんと記しましょう。他人の意見からの引用を、あたかも自分の意見のように論じる盗用は一切認めません。特に書誌情報を欠いた主観的な感想文が多いので、『塾生ガイド』に掲載の「学習指導室からの『レポート作成上の注意』」に挙げられている『レポート・論文の書き方入門』他、レポートの書き方について記されている参考書を必ず読んで、レポートの内容以前の問題で書き直しを求められることのないようにしましょう。

課題にはすべて正解があります。漠然と自分の感想を述べるのではなく、きちんと作品を読み解き、主観的な意見ではなく、客観的な事実をレポート（報告）してください。

提出されるレポートは入念に推敲を得たものであることは当然です。誤字脱字のみならず、全体の論旨についても、必ず執筆後1日以上あけてから読み直し、自分の書いた日本語を客観的に評価し、必要があれば書き直し、誤りがあれば訂正することが望まれます。レポートの提出は通信教育の要のひとつですので、レポート執筆者が一本のレポートの大切さを軽んじることがないように切望します。

【成績評価方法】

科目試験による。

近世英文学史

(L 036-7701、L 7723)〔2単位〕

【講義要綱】

この科目は、16世紀から19世紀にかけてのイギリス文学の流れを、詩、散文、演劇を中心に概観することで、近代イギリス文学の基本的な枠組みと流れを知り、より専門的な個別研究の基盤を築くことを目的とする。テキストは、ジャンル毎に、その特色と変化を、チューダー朝からビクトリア朝まで時間軸にそってたどるとともに、主要作品が文学史のなかで伝統的にどのように位置づけられているかを簡潔に示している。

【テキストの読み方】

「近世英文学史」のテキストは、16世紀から19世紀末までのイギリス文学の流れを、時代を追ってジャンル別に概説している。本書で指摘されている各時代や作家の特徴はどれも本質的な内容であり、また名前が挙がっている作家、作品も主要なものばかりである。より専門的な学習のために文学史の知識は不可欠であるため、細部までおろそかにせずにテキスト

を熟読し、各時代の特徴を系統的に整理してみるとよい。また可能な限り、言及されている作品を実際に読んでみることを。

【関連科目】

「イギリス文学研究Ⅰ～Ⅲ」「英文学特殊」「ACADEMIC WRITINGⅡ」

【参考文献】

Ford, Boris, ed., *The New Pelican Guide to English Literature*, 9 vols (Harmondsworth : Penguin, 1982-84) —主要作家、作品、社会的背景を時代別に概説している。

斎藤勇『イギリス文学史』研究社、1974—未だ日本語で書かれたもっとも詳しい大部なイギリス文学史。絶版なので図書館などで利用すること。

川崎寿彦『イギリス文学史入門』研究社出版、1986

Jonathan Bate, *English Literature: A Very Short Introduction* (Oxford: Oxford University Press, 2010)

その他の文学史の概説書については、英米文学専攻のウェブサイトでも紹介しているので参照のこと。

(http://www.flet.keio.ac.jp/englit/bibl/bibl_index.html)

【レポート作成上の注意点】

レポートの作成にあたっては、他の文献から引用した箇所、他の文献の記述を自分なりにパラフレーズして使用した箇所には、正確に注をつけること。また、レポートの末尾に、使用した文献を一次資料（引用した作品そのものやその他の原典資料）と二次資料（研究書、研究論文など）に分けて列挙すること。注や参考文献の書式は「学習のすすめ」などを参考に正確に記すこと。また、「ACADEMIC WRITINGⅡ」のテキスト（通信教材）には、注の付け方や書式についての解説が含まれている。注、参考文献が不正確なレポートは再提出となる。

【成績評価方法】

科目試験による。

イギリス文学研究Ⅰ—散文— (L 109-1101)〔2単位〕

【講義要綱】

第一次世界大戦を生き、描いた、イギリス女性作家たちのさまざまな立場を理解してもらいたい。時代と文学の多重性に注目することにより「戦争と作家」という視点をもつことが重要である。

【テキストの読み方】

通読して、文学史と文化史を把握してもらいたい。

【履修上の注意】

参考にした文献の情報は明確に伝えること。

【参考文献】

指定テキスト『イギリス文学研究Ⅰ—散文—』（『西部戦線異状あり』）に紹介されている文献案内を参照すること。

【レポート作成上の注意点】

引用文の情報は明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

イギリス文学研究Ⅱ—詩— (L 033-7603、L 7628)〔2単位〕

【講義要綱】

ミルトン、シェイクスピア、キーツ、エリオットなど、16世紀末から20世紀初頭にかけてのイギリスの代表的詩人24人の作品を読み、通常の散文とは別世界である英語の言葉の展開を追う。

【テキストの読み方】

英詩の特徴と味わい方は、テキスト序文に尽くされているので、熟読されたい。様々な韻律法が紹介されているが、それを丸暗記する必要はない。しかしそこで強調されているように、詩の真髄は言葉のリズムにあるので、どの作品も単語の意味を調べるばかりではなく、是非声に出して読み、口で賞味して頂きたい。詩のリズムは、わらべうたのように、意味の把握以前に音楽的な調子をもって言葉に息吹を吹き込んでいるからである。その上で、言葉の意味から全体の構成、作者の伝記的背景、時代状況に至るまでの要素がない交ぜとなって、作品の鑑賞に奥行きが与えられるであろう。

【レポート作成上の注意点】

広く参考文献にあたり、使用部分には注を施して出典を明記すること。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

文学作品の鑑賞において最も不可欠で重要な要因の一つであろうと思われるものを挙げるとすれば、作品との生の（直接の）触れ合いということになる。これはジャンルを問わず、すべての芸術作品についても言えることである。その出会いの原点乃至は源流を辿ることがどれほど価値を有するものであり、どれほど多くの発見を内に秘めた試みであるのかは、実際にその冒険に挑んでみなければ何人たりともわかり得ないだろう。文字通りそれほど奥の深い試みなのである。

特定の作品との感動的出会いを誘発且つ可能ならしめるところの直接的及び間接的要因をテキストのどの言葉やどの台詞に見出すかは、個人によって異なるであろう。それは各人が今日まで歩んできたところの人生行路、歩みの過程における出会いとそれによって意識的にあるいは無意識的に織りなしてきたところの人間模様、今日まで培ってきた美意識の根底に深く静かに横たわる様々な風景や自然、その他人生における諸々の体験などの積み重ねなどによって、どの言葉が琴線に触れるかは自ずから異なるからである。自然の摂理に従うより他に術はあるまい。それ故にこそ、各人の鑑賞法の尊さが存在し、各人の存在意義（the reason for being ; the raison d'être）の再確認・再認識がなされて然るべきなのである。

出会いの原点乃至は源流を遡る試みの過程において最も必要とされるテキストは、自らが今日まで織りなしてきたところの人生という書物であろう。それは内にもまた外にも開かれた open text (socialized text) であり、文字通り未完成のテキストである。未完成ではあるものの完成への強い願望と意思とを宿したものであり、自己充足への実現を何よりも真摯に志向するものである。その未完成のテキストを拠り所として、目の前の作品と自分自身との影響関係を吟味・分析し、言語化し、表現するという作業に敢然と立ち向かわれんことを切望するのが、他ならぬ本講座の主眼である。

【テキストの読み方】

個々の作品世界に入り込むことが重要である。その鍵を握るのが登場人物の台詞であろう。台詞は言葉の集積である。それ故に、一語一語の意味を解き明かし、登場人物の心理や思想、行動様式や生き方などを理解する作業が不可欠である。行間を読む（read between the lines）という作業に挑むことこそが何よりも求められているということを、自覚してほしい。

【履修上の注意】

参考資料への過度の依存は避けるべきである。参考文献からの引用などは具体的引用箇所を明らかにすべきであり、断りなく書き写してはならない（cf. plagiarism）。稚拙な文章であると思われても、自分自身の頭で書き連ねる努力が大切である。行間に滲み出るのが、偽らざる自分自身の姿であり形であってほしいからである。

【関連科目】

「イギリス文学研究Ⅰ—散文—」、「イギリス文学研究Ⅱ—詩—」、「シェイクスピア研究」等の科目と有機的に関連していることは、理解できよう。

【参考文献】

個別の作家や作品に関する参考文献（テキストの「Ⅲ 参考文献集」を参照）は数多くあるが、あくまで参考程度にとどめることが肝心である。順序としては、テキストを読んでから参考文献に移ること。そうでないと、自らの読み（reading）の基本軸を失うことになるからである。

【レポート作成上の注意点】

本レポート作成作業を通して、英語力を存分に磨いてほしい。辞書を徹底的に引き、できれば大型の辞書（見出し語の語義および記述の絶対量において他を圧倒）を潰す程に辞書を引き捲ってほしいのである。辞書が潰れる頃には、皆さんは英語の教員になっているかもしれない。嘘か本当か、是非この逆説（paradox）の実証に挑んでほしい。尚、*Oxford Advanced Learner's Dictionary* 等の英々辞典の使用も積極的に試みてはいかがだろうか。

【成績評価方法】

科目試験による。

アメリカ文学

（市販書採用科目）*（L 105-1001）〔2単位〕

【テキスト】

巽孝之『アメリカ文学史—駆動する物語の時空間』慶應義塾大学出版会、2003年

※「アメリカ文学」は上記市販書と、配本テキストのアンソロジー『アメリカ文学』の2冊が指定テキストとなります。

【講義要綱】

アメリカ文学思想史をふまえて多くの作品を読み進めていくとき、そこに17世紀ピューリタン植民地時代以来、人種・階級・性差を問わず連綿と培われたアメリカン・ナラティヴの伝統が脈々と息づいているのを見て取ることができる。テキスト『アメリカ文学史—駆動する物語の時空間』は、まさにそうした視点から、17世紀から19世紀にわたる男性、女性、混血の文学者を取り上げ、彼らがいかなるアメリカン・ナラティヴに準拠してきたかを克明に辿ったものだ。ジョン・ウィンスロップからベンジャミン・フランクリン、マーク・トウェインからF・スコット・フィッツジェラルド、トマス・ピンチオンからカレン・テイ・ヤマシタに至る壮大なパースペクティヴを、アンソロジー『アメリカ文学』の原文を読むことで確認してほしい。

【参考文献】

レポート作成、科目試験準備に当たっては、テキストに加え以下の参考文献も適宜参照すること。

Peter B. High, ed, *An Outline of American Literature* (New York : Longman, 1986).

巽孝之『ニュー・アメリカニズム——米文学思想史の物語学』増補新版、青土社、2005年

【レポート作成上の注意点】

教科書を熟読した上で、その方法論を活かしつつ、代表的作品群を読み解くことが、このレポート課題の学生諸君に要求するところである。したがって、明らかに下記の三点に違反するものは不合格とする。

- (1) アンソロジー収録作品原典を必ず読み、そのことがはっきりわかるように原文からの引用と、できれば試訳も含むこと。
- (2) 教科書で扱われているアンソロジー収録以外の作品の場合、教科書をふまえながらも、できるだけ別の見解を編み出すこと。
- (3) 教科書で扱われていない作品の場合、その作家に関する他作品及び二次資料をも、きちんと収集してから分析すること。

なお、レポートにはときとして教科書の記述を丸写しにして恥じないものが少なくない。そういう姿勢が露呈した場合、自動的に不合格となるので覚悟されたい。

【成績評価方法】

科目試験による。

アメリカ文学研究 I

(L 030-7602、L 7626)〔2単位〕

【講義要綱】

本講座は、19世紀前半のアメリカ・ルネッサンス期を代表する6名の作家の作品を講読することで、現代にまで受け継がれているアメリカ文学の特徴を学ぶことを目的とする。受講者は、テキストに収録された作品を通読し、それぞれの作家の特徴を学ぶとともに、時代思潮についての知識も深めることになるだろう。

【テキストの読み方】

英語で文学作品を読むためには、まずよい辞書が必要となる。本講座では『リーダーズ英和辞典 第三版』（研究社）をすすめる。テキストを読みながら、これはどういう意味だろうか、なぜこういう書き方をしているのだろうか、という疑問を大切にしてほしい。

【履修上の注意】

基本的な英語文法を習得していることが必要となる。

【参考文献】

テキスト末尾に掲載されている Bibliography を参照されたい。

【レポート作成上の注意点】

「テキストの読み方」で指摘したとおり、これはどういう意味だろうか、なぜこういう書き方をしているのだろうかという疑問や、気になる表現を考えることで、自分が論じたい点が明確になるだろう。その考察の補助線として、テキストの末尾に付された詳細な註釈や、末尾にある Bibliography に掲載された参考文献を参照しつつ、自分の解釈をほどこしていくことが大切である。

使用した参考文献に関する書誌情報は、レポートの末尾に記載すること。ただし、参考文献リストはレポートの文字数には入らないので注意されたい。

【成績評価方法】

科目試験による。

アメリカ文学研究Ⅱ

(L 017-6901、L 7931)〔2単位〕

【講義要綱】

文学研究において、実際の作品をどのように解釈するかという作業は避けて通れないものである。この科目では、20世紀のアメリカ文学のいくつかの作品について、原文を注意深く読み、そこに描かれた物語の内容と形式に込められた意味をどのようにして理解すべきかという作業を行うことにより、アメリカ文学の読み方に関する技術を向上させることを目的とする。

【履修上の注意】

英語で書かれた作品の解釈を行うのであるから、英語の必要単位が全て取得済であることは、当科目の履修の条件として当然のことである。まとまった量の英語の読解に自信のない者には履修を勧めない。

【参考文献】

高田賢一・森岡裕一編『シャーウッド・アンダソンの文学』ミネルヴァ書房、1999年
大橋健三郎ほか編『総説アメリカ文学史』研究社、1975年

【レポート作成上の注意点】

文学作品を「論じる」という行為は、構成・技法・形式上の特質、登場人物の性格描写や人物造形、主題、文学史的価値などについて、作中の具体的な証拠（舞台設定や表現など）に基づいて論理的に説明し、自らの解釈を展開することである。作者は何を訴えようとしたのか、そのためにどのような工夫をしているのかを分析すること。これらの点について言及

されておらず、あらすじ紹介や感想文に終始しているレポートは、「論じる」という次元に達していないものとして、全て不合格とする。また、作品の理解には、歴史的背景や文学史的知識が有効であることはいままでもないが、この科目は、それらの知識の有無を直接問うことが目的ではない。それらの知識を参考にして、実際の作品の価値をどう解釈するかがあくまで重要なのであるから、歴史的背景や文学史的知識を羅列しただけのレポートも不合格とする。したがって、当科目のレポートを作成するに当たっては、テキストの原文を丹念に読むことはもちろん、作品の書かれた時代背景や作者の文学史的位置、作者が書いた他の作品や他の作家との比較等、幅広い知識を活用して、実際の作品を具体的な証拠からどう意味づけるか論理的に説明できなければならない。作品を一つ読めばレポートが書けるわけではなく、アメリカ文学の流れや個々の作家に関する相当な勉強量が求められていることを認識した上でレポート作成に取りかかること。なお、科目試験の受験に当たっては、このレポート作成に求められるのと同様の勉強をテキストに掲載された他の全ての作品についても行った上で臨むこと。

【成績評価方法】

科目試験による。

シェイクスピア研究

(L 039-7702、L 7730)〔2単位〕

【講義要綱】

シェイクスピアの劇作品は、16世紀以来、演出を変えてくりかえし上演され、また映画、絵画、オペラなど、異なったメディアでも扱われ続けてきた。そのようにテキストを受け止める文化的文脈が変化しても、変わらずに人気を保ち続けることは、シェイクスピア劇がまさに古典であることの証である。そうした永続的な魅力を一読者として知り、それを客観的に言語化できるためには、シェイクスピア解釈における様々な批評的立場を知り、それらを自己の解釈の確立に活用するとともに、何よりもテキスト本文の厳密な読みを心がける必要がある。それは、16世紀の英語を語学的に正確に読むということにとどまらず、作品中における特定の概念の意識的な主題化、イメージの連鎖、プロットの展開、登場人物の類型などに関して、分析的にテキストを読むことである。この点をふまえて、本科目の受講生は以下のようなプロセスで学習を進め、レポートの作成へと至って欲しい。

1. 教科書を通読し、エリザベス朝時代の演劇上演の背景やシェイクスピアの劇作品について、バランス良く基礎知識を習得する。シェイクスピアの英語（第7章）については、文法的特徴を現代英語との対比において理解する。
2. 教科書を参考にシェイクスピアの劇作品を複数選び、分析的に精読する。翻訳を活用して読み進めて良いが、定評ある学術的校訂版（The New Cambridge Shakespeare, The Oxford Shakespeare, The Arden Shakespeare などのシリーズが、注が豊富である）を

入手し、原文と意識的に対照させながら読むことが望ましい。また、各ジャンル（悲劇、喜劇、歴史劇、ロマンス劇）について、それぞれ一編ずつは読んでみるとよい。

3. シェイクスピア劇を実際にどのように分析するのか、それを知り、自分の解釈を客観的に提示するための参考とするために、近年のシェイクスピア劇の研究書のなかから定評あるものを複数読んでみる（参考書リスト参照）。

【テキストの読み方】

本科目のテキストは、シェイクスピアを批評するために有益な、シェイクスピアに関する伝記的事実、作品の制作状況、エリザベス朝の世界観や上演形態に関する基礎知識を中心的に記述している。テキストを通読することで作品を読むための文化的文脈を理解してほしい。その上で、各自の興味に従ってシェイクスピアの劇作品を数点選び、じっくりと読み込んでほしい。

【関連科目】

「近世英文学史」「イギリス文学研究Ⅲ—演劇—」「ACADEMIC WRITING II」

【参考文献】

シェイクスピア研究には大量の研究書が存在しているので、良書のみを選び出して利用する必要がある。以下には日本語で読めるものに限って、(1) 研究ハンドブック的なもの、(2) 近年の定評ある研究書に厳選して列挙した。もちろん以下に示し得なかった研究書のなかにも重要なものは数多いが、このリストの書目を出発点としてさらに自分の興味にあった研究書を探して読み進めて欲しい。

シェイクスピアをはじめ16-17世紀イギリス文学に関する重要な参考文献については、英米文学専攻のウェブサイトでも紹介しているので参照のこと。

(http://www.flet.keio.ac.jp/englit/bibl/bibl_index.html)

- ・高田康成他編『シェイクスピアへの架け橋』（東京大学出版会、1998）
- ・小津次郎編『シェイクスピア作品鑑賞事典』（南雲堂、1997）
- ・高橋康也編『シェイクスピア・ハンドブック』（新書館、2004）
- ・C. L. Barber, *Shakespeare's Festive Comedy* (1959). C. L. バーバー『シェイクスピアの祝祭喜劇』玉泉他訳（白水社、1979）
- ・Stephen Greenblatt, *Renaissance Self-Fashioning: From More to Shakespeare* (Chicago: Univ. of Chicago, 1980). スティーブン・グリーンブラット『ルネサンスの自己成型』高田茂樹訳（みすず書房、1992）
- ・Stephen Greenblatt, *Shakespearean Negotiations* (1988). スティーブン・グリーンブラット『シェイクスピアにおける交渉』酒井正志訳（法政大学出版局、1995）
- ・Juliet Dusinberre, *Shakespeare and the Nature of Women* (1975). ジュリエット・デュシンベリー『シェイクスピアの女性像』森祐希子訳（紀伊國屋書店、1994）
- ・Terry Eagleton, *William Shakespeare* (1986). テリー・イーグルトン『シェイクスピア—

言語・欲望・貨幣』大橋洋一訳（平凡社、1992）

- ・ Anne Barton, *Shakespeare and the Idea of the Play* (1962). アン・バートン『イリュージョンのカーシェイクスピアと演劇の理念』青山誠子訳（朝日出版社、1981）
- ・ Robert Weimann, *Shakespeare and the Popular Tradition in the Theater*, ed. by Robert Schwartz (Baltimore, MD: Johns Hopkins UP, 1978). R・ヴァイマン [著]; R・シュワーツ [編]『シェイクスピアと民衆演劇の伝統』青山誠子・山田耕士訳（みすず書房、1986）
- ・ Jan Kott, *Shakespeare Our Contemporary*, trans. by Boleslaw Taborski (1965). ヤン・コット『シェイクスピアはわれらの同時代人』蜂谷昭雄・喜志哲雄訳（白水社、1968）
- ・ Jan Kott, *The Bottom Translation: Marlowe and Shakespeare and the Carnival Tradition* (1987). ヤン・コット『シェイクスピア・カーニヴァル』高山宏訳（平凡社、1989）
- ・ 岩崎宗治『シェイクスピアのイコノロジー』（三省堂書店、1994）
- ・ 蒲池美鶴『シェイクスピアのアナモルフォーズ』（研究社、1999）
- ・ 青山誠子『シェイクスピアの女たち』（研究社、1981）
- ・ 玉泉八州男『女王陛下の興行師たち』（芸立出版、1984）
- ・ ノーマン・F・ブレイク『シェイクスピアの言語を考える』森祐希子訳（紀伊國屋書店、1990）

【レポート作成上の注意点】

レポートの作成にあたっては、他の文献から引用した箇所、他の文献の記述を自分なりにパラフレーズして使用した箇所には、正確な注をつけること。また、レポートの末尾に、使用した文献を一次資料（引用した作品そのものやその他の原典資料）と二次資料（研究書、研究論文など）に分けて列挙すること。注や参考文献の書式は『塾生ガイド』（または、『教職課程履修案内』）に掲載の「レポート作成上の注意」、そして『MLA 英語論文の手引き』などを参考に正確に記すこと。また、「ACADEMIC WRITING II」のテキスト（通信教材）には、注の付け方や書式について、詳しい解説が含まれている。注、参考文献が不正確なレポートは再提出となる。

【成績評価方法】

科目試験による。

日米比較文化論（総論）（市販書採用科目）（L 102-0891）〔2単位〕

【指定テキスト】

川澄哲夫『黒船異聞—日本を開国したのは捕鯨船だ』有隣堂、2004年

【講義要綱】

黒船来航以降の19世紀後半の日米関係について考察することを本日米比較文化論は目的と

します。この時期はまさに日米関係の泰明期であり、今日に至る日米関係の歴史を考える上でも最重要な時期といえるでしょう。

19世紀の後半、日本は、江戸から明治へと年号を変え、西洋化ないしは欧米化という形で近代化を一気に実現しました。開国後に始まる明治時代は、文明開化、脱亜入欧が喧伝される反面、それに伴う社会不安も大きく、それまで培ってきた自国の伝統に対する認識も大きく揺らがざるをえなかった動乱の時期です。もう一方太平洋の反対側のアメリカでは、南北戦争後の19世紀後半、マーク・トウェインが「金ぴか時代 (the Gilded Age)」と呼んだ時代を迎えました。それはアメリカが、やがてはイギリスを制して世界の覇権となる基礎を、急速な国際化、技術革新に支えられた工業化の実現により築いた時代でした。太平洋を挟んだ両国はともに急速な社会変化、国際化を迫られつつあり、かつまた、そのために明のみならず暗の部分を抱えることになったのです。そうした歴史的背景のなかで、アメリカにとって日本、とくに「オールド・ジャパン」とはどのような存在と化したのか。伝統と変革、消えつつある開国以前の古い日本と現れつつある開国後の新しい日本を、アメリカはどのように理解し、想像したのか。また日本はアメリカの日本観をどのように受容し(再)想像・創造したのか。そうした疑問に対する答えを、教科書テキストと参考文献を参照しながら、多角的かつ具体的に考察してください。

【テキストの読み方】

基本的な事実の確認を第一としてください。テキストから学んだことと、自分がそれをもとに考えたことをきちんと分けるようにつとめましょう。また教科書や参考文献で頻繁に言及されている、日米を往来した人物たちに注目し、そうした人物たちの著した原作にも触れる努力を心がけてください。

【履修上の注意】

一方的にならず、相互的な見方を心がけ、政治、経済、文化、文学等へ幅広い関心を持ちましょう。

【関連科目・分野】

米文学、地域研究、国際関係学

【レポート課題・科目試験出題用指定参考書】

Christopher Benfey, *The Great Wave: Gilded Age Misfits, Japanese Eccentrics, and the Opening of Old Japan* (New York: Random House, 2004) [邦訳、『グレイト・ウェイブー—日本とアメリカの求めたもの』大橋悦子訳、小学館、2007年]

※この参考文献からも、レポート課題と科目試験が出題されます。

【レポート作成上の注意点】

本科目のレポートは、科目試験と同形式で出題されています。テキストを十分学習した上で、テキストから学んだ事実や表現と、自分がそれをもとに考えた論考を、読み手にわかり

やすいようにきちんと分けて書くことが大切です。上記のテキスト以外にも、同時代の日米関係を論じたものは多々あります。そうした他の参考文献を参照した場合には、レポートの最後に必ず主要参考文献表をつけ、明記することを忘れないでください。技術的にはできるだけ箇条書きをさげ、筋道をたてた議論を展開させることが必要です。細切れや参考文献の丸写しは論文とはいえません。できるかぎりワープロを使用してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

近代ドイツ小説

(L 054-8302)〔2単位〕

【講義要綱】

教科書『近代ドイツ小説』では主に小説ジャンルに特化して、ドイツ文学史を語っています。受講生諸君はまずこの本を熟読することから始めてください。そして文学史の大体の流れが掴めたら、今度はそこに述べられていた小説のなかで気に入ったものを実際に読んでみてください。それが第一歩です。この講義が刺激となってドイツ文学の世界に受講生の諸君が参入してくれることが第一です。そしてそれをきっかけとしてドイツ文化などについても考えてください。小説を読んで自らを反省し、あるいはドイツ人やドイツ文化についての知識を自分で広げていく、これが次の一歩です。そして最後には、自分の意見を表現してみましよう。

【テキストの読み方】

上記の教科書であれ、参考文献にあげられたものであれ、まず1冊の文学史を選択して、それを数度にわたって読んでください。それが基礎的知識を形成します。そしてそのあとでは、参考文献の巻末についているはずの文献を渉猟して、徐々に知識を増加させてください。

【履修上の注意】

特にありませんが、ネットの文字情報等をそのままコピーして使用した場合、カンニング行為と見なされることがありますので、十分にご注意ください。

【関連科目】

文学はすべてに関連していますが、特に、哲学、美術史学、音楽などにも関心をもってください。余力があれば、さらに社会学、歴史学、科学史などにも進んでください。

【参考文献】

インターネットを活用できる方は、CiNiiなどの論文検索サイトを使ってみてください。ドイツ語のできる方であれば、積極的にドイツのネットで必要な情報を探すのもひとつの方法でしょう。ハインツ・シュラッファー『ドイツ文学の短い歴史』（同学社、2002年）、藤本

ほか著『ドイツ文学史（第2版）』（東京大学出版会、1995年）、佐藤晃一『ドイツ文学史』（明治書院、2002年）、岡田ほか著『ドイツ文学案内（増補新版）』（朝日出版社、2000年）、阿部謹也『物語 ドイツの歴史』（中公新書、1998年）。

【レポート作成上の注意点】

自分の考えと、参考文献に書かれていることとの間の「距離」を十分にとって、立体的に論熟してください。そのためには、文献を批判的に、つまり「他の考え方もあるのではないか」と考えながら読み込んでください。参考文献からの引用にはかならず出典を（通常は注として）明記してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

近代ドイツ演劇

(L 023-7303)〔2単位〕

【講義要綱】

ドイツ演劇は18世紀の啓蒙主義の時代から著しく発展し始め、古代ギリシア悲劇やシェイクスピア演劇などの伝統を継承したり復活させたりしつつ、新たな様式やジャンルを開拓し確立していった。その後19世紀後半の自然主義演劇まで続くこの発展は近代演劇の歴史そのものといえる。20世紀に入りいわゆる現代演劇の時代になると、劇作家たちは近代演劇のありようを刷新したり、見直したりすることでアクチュアルな戯曲を創造し続け、今日に至っている。また、ドイツ演劇はドイツだけでなく、オーストリアやスイスの演劇も含み、この双方の国々からも重要な劇作家が輩出され、独自の演劇ジャンルや歴史が確立している。

【テキストの読み方】

テキスト全体を通読した上で、課題に関する記述を確認し、該当箇所を入念に読み直してください。

【履修上の注意】

テキストを通読した上で、関心のある戯曲を実際に読んでみるといいでしょう。また、ドイツ演劇は社会の近代化とともに著しく発展し、近代化のプロセスで生じた社会的問題を批判的に描くことで歴史的展開を経てきました。したがって近代ドイツ演劇の足跡をたどる際に、時代の社会的状況とその変遷もたどることが望ましいでしょう。

【参考文献】

平田栄一郎『ドラマトゥルク——舞台芸術を進化／深化させる者』（第1・2章）三元社、2010年

【レポート作成上の注意点】

テキストにおけるオーストリア・スイスの説明はある程度限定されていますが、それらとドイツ演劇に関する記述を比較して、レポートの課題に取り組んでください。

【成績評価方法】

科目試験による。

フランス文学概説

(L 106-1001)〔3単位〕

【講義要綱】

2010年度新設のこの科目は、フランス文学研究に役立つさまざまなテーマ系の発展の過程をたどりながら、作品解釈を進めるための方法論を学ぶことを目的としています。また、フランス語学史、作品伝播の手段の歴史、文学教育の歴史、(フランス本国ではなく)フランス語圏の文学についても多くの紙面を割いて紹介している点において、この科目で使用する教科書は、市販のフランス文学史の教科書とは一線を画しています。したがって、フランス文学にかんする卒業論文を執筆したいと考えているかたがたのみならず、さまざまな文学アプローチの可能性に関心を持たれているかたがたにとっても示唆に富んだものであると言えるでしょう。

【テキストの読み方】

まず目次に目を通し、興味を持った章を通読することからはじめてください。その中で特に関心をもった作品、作家にかんする項目について、他の章ではどのように扱われているか、さらに調べてみるようにしてみてください。その際、巻末のインデックスを活用してください。

【履修上の注意】

基礎的なフランス語の知識があることが望まれます。また、以下に挙げる関連科目と併せて履修すると、より理解が深まると思われれます。

【関連科目】

「十九世紀のフランス文学Ⅰ」、「十九世紀のフランス文学Ⅱ」、「二十世紀のフランス文学」、「文学」

【参考文献】

教科書に紹介されている作品のうち、興味を持ったものについては、ぜひとも自分で一読されることをお勧めします。また、各章末に挙げた参考文献を参照することによって、いっそう確実に知識を固めることができるでしょう。

【レポート作成上の注意点】

まず、教科書と分析対象として選んだ文学作品を熟読することからはじめてください。そして、テーマが絞りきれた時点で、関連する参考文献を探してみてください。

教科書や参考文献をただひきうつしたり、その内容をまとめたりしただけのレポートは評価の対象とはなりません。分析対象とする作品からは必ず引用をして、教科書の解説を参考にしながら、自分なりの分析をほどこすようにしてください。参考文献は、自分の見解を支えるために活用すべきではありますが、大部分が引用で成り立つものは受け付けられません。自分の分析が主となっているようなレポートを作成するよう、心がけてください。

また、文学作品や参考文献からの引用については、必ず脚注、あるいは文末注に、著者、タイトル、出版社、出版年、ページなどの情報を明記してください。レポートの末尾にかならず総字数を明記してください。

【成績評価方法】

科目試験による。

十九世紀のフランス文学Ⅰ (L 077-9601)〔3単位〕

【講義要綱】

19世紀フランス文学の文学史的概観に基づいて、個々の作品をそれ以前あるいは以後の作家の作品と関連させながら丹念に読み解いていくことを目標とします。

【テキストの読み方】

教科書の第一部「概観」では、文学作品が生み出された歴史的背景や各時代特有の問題点が整理されています。レポートに取り組む前に、かならず目を通しておいてください。第二部「作家の顔」は個々の作家を研究する場合に、その生涯や作品の概略を知る上で参考になります。

【履修上の注意】

基礎的なフランス語の知識を有することが望ましい。

【関連科目】

「十九世紀のフランス文学Ⅱ」、「フランス文学概説」

【参考文献】

高山鉄男『バルザック』清水書院、1999年

【レポート作成上の注意点】

- 1) 対象とする作品を精読して、全体像を把握する。
- 2) レポートの課題にしたがって、作品の個々のテーマについて考察する。

- 3) 参考文献を参照し、論点を絞り込む。
- 4) 導入から結論に至る文章のアウトラインを考える。
- 5) 作品の引用を効果的に織り込みながら、自分の考えを展開する。
- 6) 引用文には出典と引用頁数を必ず明記する。

【成績評価方法】

科目試験による。

十九世紀のフランス文学Ⅱ (L 078-9801)〔3単位〕

【講義要綱】

19世紀フランス文学の文学史的概観に基づいて、個々の作品をそれ以前あるいは以後の作家の作品と関連させながら丹念に読み解いていくことを目標とします。

【テキストの読み方】

教科書の第一部「概観」では、文学作品が生み出された歴史的背景や各時代特有の問題点が整理されています。レポートに取り組む前に、かならず目を通しておいてください。第二部「作家の顔」は個々の作家を研究する場合に、その生涯や作品の概略を知る上で参考になります。

【履修上の注意】

基礎的なフランス語の知識を有することが望ましい。

【関連科目】

「十九世紀のフランス文学Ⅰ」、「フランス文学概説」

【参考文献】

- エミール・ゾラ『美術論集』（三浦篤・藤原貞朗訳、藤原書店、2010年）
『ロートレアモン全集』（石井洋二郎訳、ちくま文庫、2005年）

【レポート作成上の注意点】

- 1) 対象とする作品を精読して、全体像を把握する。
- 2) レポートの課題にしたがって、作品の個々のテーマについて考察する。
- 3) 参考文献を参照し、論点を絞り込む。
- 4) 導入から結論に至る文章のアウトラインを考える。
- 5) 作品の引用を効果的に織り込みながら、自分の考えを展開する。
- 6) 引用文には出典と引用頁数を必ず明記する。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

20世紀においてフランスの作家、批評家たちの多くは、さまざまな政治的、社会的問題に直面し、書くことの意義についての反省を余儀なくされていたといえるでしょう。彼らが紙面上の文字を媒体とした創造行為に、いかなる可能性あるいは限界を見ていたのか、何が彼らを書くことへと向かわせていたのかなど、今日でも切実さを失ってはいない問題に、作品を精読しながら勇気を持って取り組んでください。作者の思想や登場人物の心情に安易に共感するのではなく、社会、世界、人間に対するどのような要請が作品の独自性を成り立たせているのかを、論理的に考察しましょう。

【履修上の注意】

フランス文学の専門科目ですから、少なくとも初級程度のフランス語を習得していることが望まれます。

【参考文献】

饗庭孝男・朝比奈誼・加藤民男編『新版フランス文学史』白水社、1992年

福井芳男・阿部良雄ほか編『フランス文学講座』全6巻、大修館書店、1976-1979年

【レポート作成上の注意点】

選んだ作品を幾度も読み返し、中心となるテーマを把握することが大切です。その後で、テキストや参考文献を使い、作品の書かれた時代背景、その作家の創作活動全体に作品の占める位置などを正確かつ簡潔にまとめることから始めてください。そして本論では、多少大胆でも自分独自の見解を展開していくことが不可欠です。「私と作品の出会い」、「人生を変えたこの一冊」といった体裁のエッセーや読書感想文は問題外ですし、自分で理解する努力をせず、概説書の内容の引き写しに終始することも厳禁です。また、参考文献からは適宜、対象作品からは必ず引用をして、引用文末尾または脚注で、著者、タイトル、翻訳者名、出版社、出版年、ページなどの出典を明確にしてください。

【成績評価方法】

科目試験による。

【講義要綱】

ロシア文学は19世紀中葉に世界の最高峰にまで登りつめた文学で、その伝統は今でも生きています。トルストイやドストエフスキーやチェーホフなど、ぜひ人類の遺産とも言うべきロシア文学に、一度触れてみませんか。

当テキストは、ロシア文学を実際に手にとって味読してもらうための手引書であり、中世から19世紀、20世紀を経て現代に至るまでのロシア文学の彩り豊かな世界へと誘うものです。ゴーゴリやドストエフスキー、ブルガーコフ、バステルナーク、ソルジェニーツィン、ナボコフ、そしてペレーヴィンらの魂を揺さぶるような、あるいは読者の世界観までも変えてしまうようなエネルギーを感じてほしいと思います。また、ロシア文学を今日の視点から読み直し、私たちにも通ずる普遍的でアクチュアルな問題を考察するために、ジェンダーやポスト・コロニアリズムなど小説を読み解く視座を呈示するとともに、小説の普遍的テーマがオペラやバレエ、演劇、映画など他の芸術ジャンルによって表現されたケースについても紹介しています。ロシア文学の作品世界を多様な芸術言語で横断的に楽しむ案内として役立ててください。

なお、レポートの作成の際には、このテキストだけでなく参考書や他の参考文献も併用してください。科目試験では、テキストの中から重要と思われるテーマを選んで出題します。

【テキストの読み方】

1回目は個々の具体的な作品や作家の具体的な人間像を追って、イメージしながら読む。続いて2回目は、ロシアの時代の流れを通して、文学の主義や思想などを読み込む。そして3回目は、その他の細かい部分にも注意して読む。都合3回読むことで、テキストの内容が頭に入ってくると思います。

【参考文献】

水野忠夫編著『ロシア文学 名作と主人公』自由国民社、2009年

藤沼貴・水野忠夫・井桁貞義編著『はじめて学ぶロシア文学史』ミネルヴァ書房、2003年

藤沼貴・小野理子・安岡治子『新版 ロシア文学案内』岩波文庫別冊、2000年

川端香男里『ロシア文学史』東京大学出版会、1996年

【レポート作成上の注意点】

ロシア文学全体の流れをつかんだ上で、対象作品を精読して下さい。論述に際しては、課題で何が求められているのかを把握した上で、レポート全体の構成を考えたから執筆に取り組むようにして下さい。引用・援用部分には必ず註を付けて典拠を明示して下さい。対象作品は何を用いたか、明記して下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。

ラテン文学

(L 056-8402、L 8452) [1単位]

【講義要綱】

古典ラテン語で書かれた文学（古代ローマ文学）の主要な作家及びその作品について、基

本的な知識を学ぶと共に、翻訳を通じてその実例に触れることを目的とする。

【履修上の注意】

特にありません。

【レポート作成上の注意点】

作品の翻訳を読み、それに対する自分の考え、感じ方を述べるようにこころがけて下さい。

【成績評価方法】

科目試験による。